

## 第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査



## 第4章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

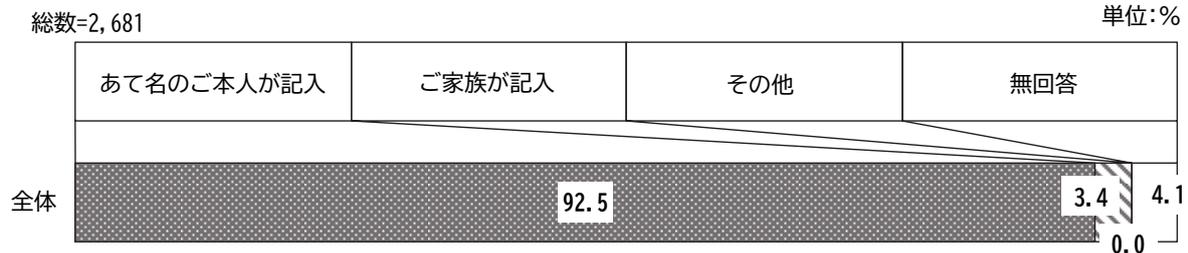
### 1 本人や家族の状況について

#### (1) 調査票の回答者

問1 この調査票を記入されるのはどなたですか。(〇は1つ)

この調査票の記入者は、「あて名のご本人が記入」の割合が92.5%で最も高く、次いで「ご家族が記入」が3.4%となっている。

図表4-1-1 回答者

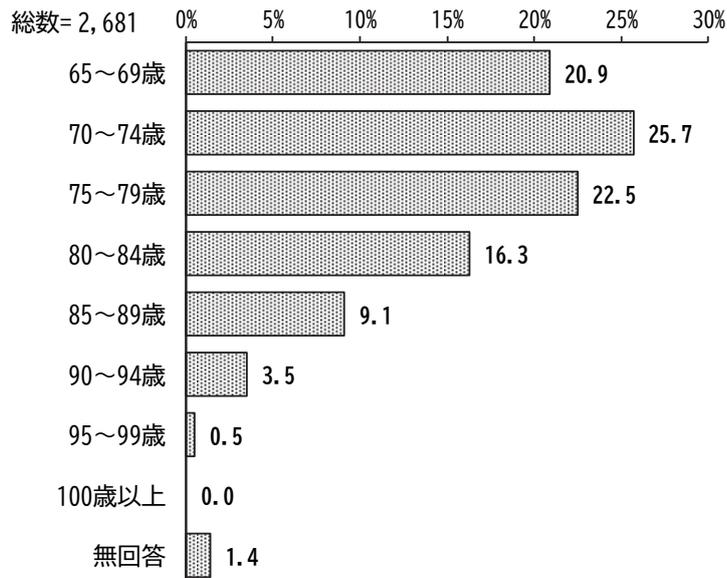


#### (2) 年齢

問2 あなたの令和4年10月1日現在の満年齢を教えてください。(〇は1つ)

年齢は、「70～74歳」の割合が25.7%で最も高く、次いで「75～79歳」が22.5%、「65～69歳」が20.9%となっている。全体では前期高齢者（74歳以下）が46.6%、後期高齢者（75歳以上）が51.9%である。

図表4-1-2 年齢



※年齢階級「95～99歳」は0.5%（13名）、「100歳以上」は0.0%（1名）のため、以下の統計表では「90～94歳」と合わせて「90歳以上」として集計している。

### (3) 性別

問3 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

性別は、「女性」の割合が57.3%、「男性」が41.3%となっている。

図表4-1-3 性別

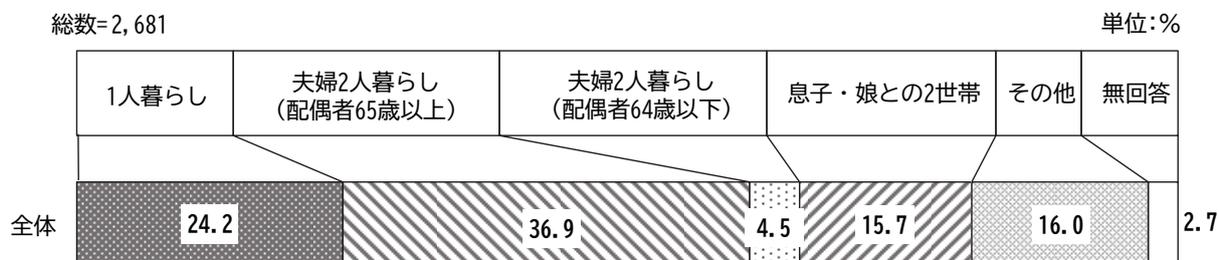


### (4) 家族構成

問4 あなたの家族構成を教えてください。(〇は1つ)

家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が36.9%で最も高く、次いで「1人暮らし」が24.2%、「息子・娘との2世帯」が15.7%となっている。

図表4-1-4 家族構成



回答者の家族構成を性別でみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」と「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」を合わせた『夫婦2人暮らし』の割合は、男性が52.1%、女性が34.7%で、男性が女性を17.4ポイント上回っている。一方で「1人暮らし」の割合は女性が29.5%、男性が17.5%で、女性が男性を12.0ポイント上回っている。

また、年齢階級別にみると、女性は年齢階級が高くなるにつれて「1人暮らし」の割合が高くなる傾向がみられ、女性の80歳代では約40%、90歳以上では43.7%が「1人暮らし」である。

図表4-1-5 家族構成（性別・年齢階級別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

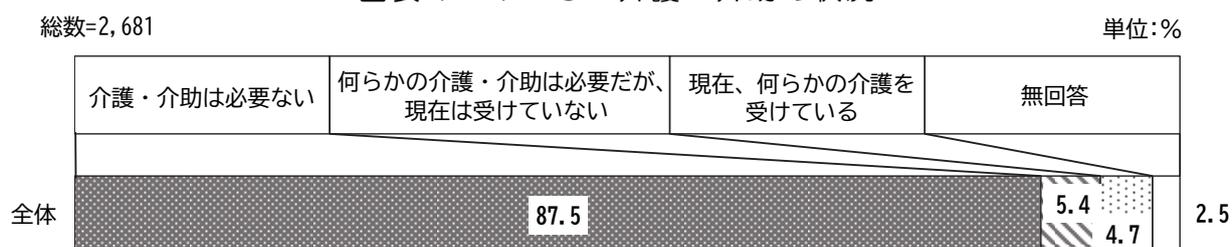
		全体	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答
全体		2,681 100.0	648 24.2	990 36.9	120 4.5	422 15.7	429 16.0	72 2.7
性別・年齢階級	男性全体	1,108 100.0	194 17.5	491 44.3	86 7.8	162 14.6	167 15.1	8 0.7
	65～69歳	253 100.0	48 19.0	70 27.7	56 22.1	22 8.7	57 22.5	-
	70～74歳	303 100.0	61 20.1	137 45.2	18 5.9	41 13.5	44 14.5	2 0.7
	75～79歳	246 100.0	38 15.4	126 51.2	8 3.3	33 13.4	39 15.9	2 0.8
	80～84歳	180 100.0	28 15.6	96 53.3	3 1.7	37 20.6	13 7.2	3 1.7
	85～89歳	88 100.0	13 14.8	47 53.4	1 1.1	18 20.5	9 10.2	-
	90歳以上	37 100.0	6 16.2	15 40.5	-	10 27.0	5 13.5	1 2.7
	女性全体	1,535 100.0	453 29.5	499 32.5	34 2.2	259 16.9	261 17.0	29 1.9
	65～69歳	306 100.0	64 20.9	120 39.2	14 4.6	44 14.4	61 19.9	3 1.0
	70～74歳	385 100.0	90 23.4	151 39.2	9 2.3	60 15.6	73 19.0	2 0.5
	75～79歳	356 100.0	100 28.1	136 38.2	8 2.2	49 13.8	56 15.7	7 2.0
	80～84歳	258 100.0	104 40.3	58 22.5	1 0.4	45 17.4	42 16.3	8 3.1
	85～89歳	157 100.0	63 40.1	31 19.7	2 1.3	39 24.8	17 10.8	5 3.2
	90歳以上	71 100.0	31 43.7	3 4.2	-	22 31.0	11 15.5	4 5.6
その他・無回答		38 100.0	1 2.6	-	-	1 2.6	1 2.6	35 92.1

## (5) 介護・介助の状況

問5 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)

介護・介助の状況は、「介護・介助は必要ない」の割合が87.5%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が5.4%、「現在、何らかの介護を受けている」が4.7%となっており、介護・介助が必要と回答した人の割合は10.1%である。

図表4-1-6 介護・介助の状況

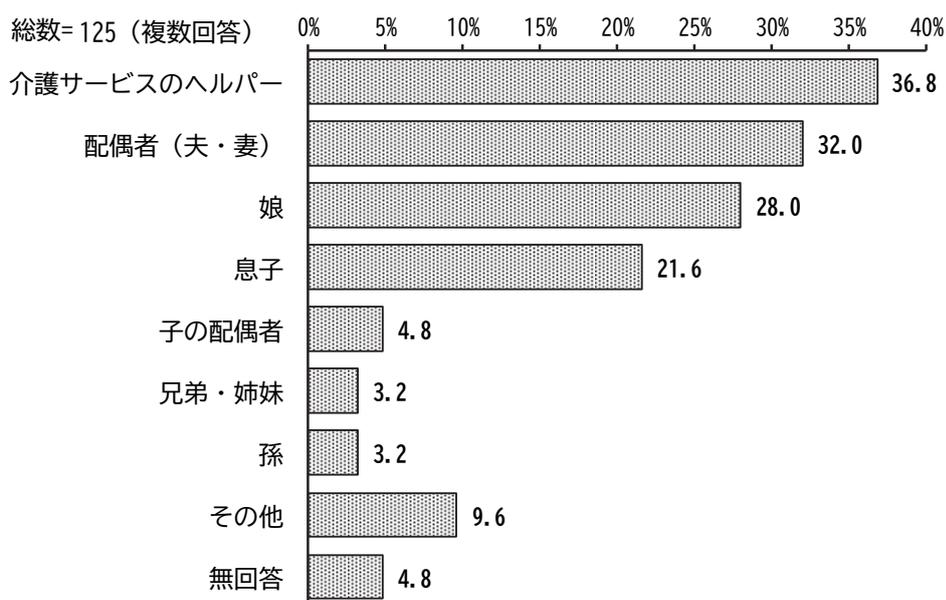


【問5において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方におたずねします。】

問5-1 主にどなたの介護・介助を受けていますか。(○はいくつでも)

主な介護・介助者は、「介護サービスのヘルパー」の割合が36.8%で最も高く、次いで「配偶者(夫・妻)」が32.0%、「娘」が28.0%、「息子」が21.6%となっている。

図表4-1-7 主な介護・介助者

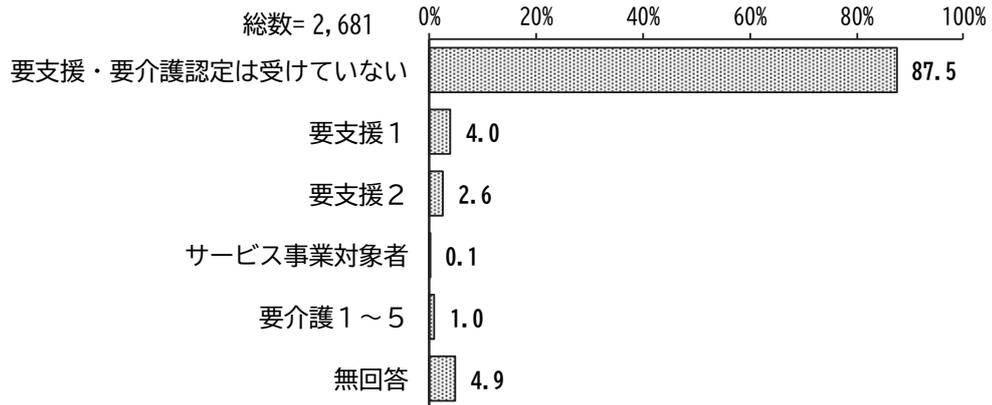


(6) 要支援・要介護認定の状況

問6 あなたは、要支援・要介護認定を受けていますか。(〇は1つ)

「要支援・要介護認定は受けていない」の割合が87.5%で最も高く、次いで「要支援1」が4.0%、要支援2が2.6%となっている。

図表4-1-8 要支援・要介護認定の状況

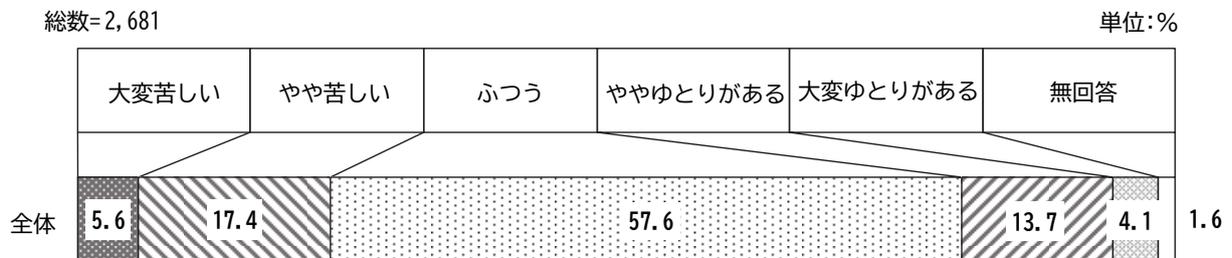


(7) 経済的に見た暮らしの状況

問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(〇は1つ)

経済的に見た暮らしの状況は、「ふつう」の割合が57.6%で最も高く、次いで「やや苦しい」が17.4%、「ややゆとりがある」が13.7%となっている。また、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』と回答した人の割合は23.0%、「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』と回答した人の割合は17.8%である。

図表4-1-9 経済的に見た暮らしの状況

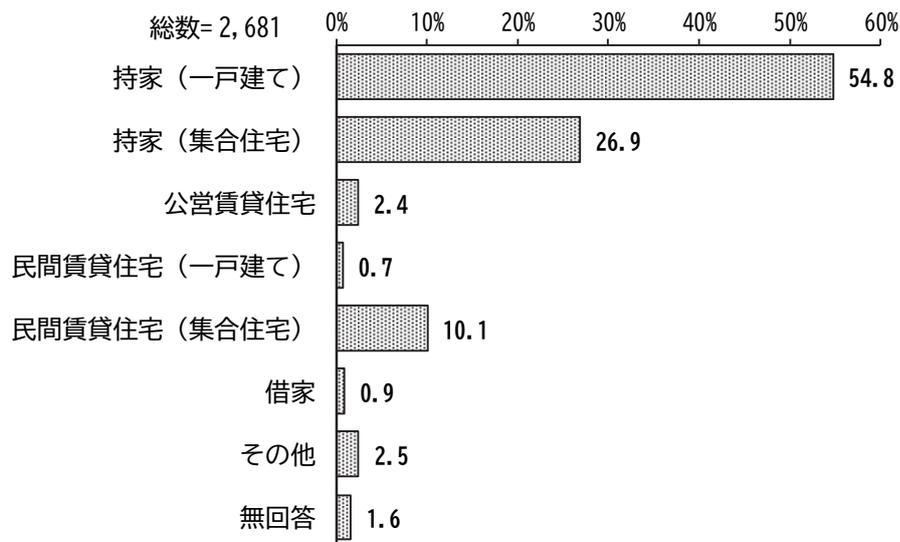


## (8) 住まいの種類

問8 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(〇は1つ)

住まいの種類は、「持家（一戸建て）」の割合が54.8%で最も高く、次いで「持家（集合住宅）」が26.9%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が10.1%となっており、一戸建てと集合住宅を合わせると、持家の割合は81.7%となっている。

図表4-1-10 住まいの種類

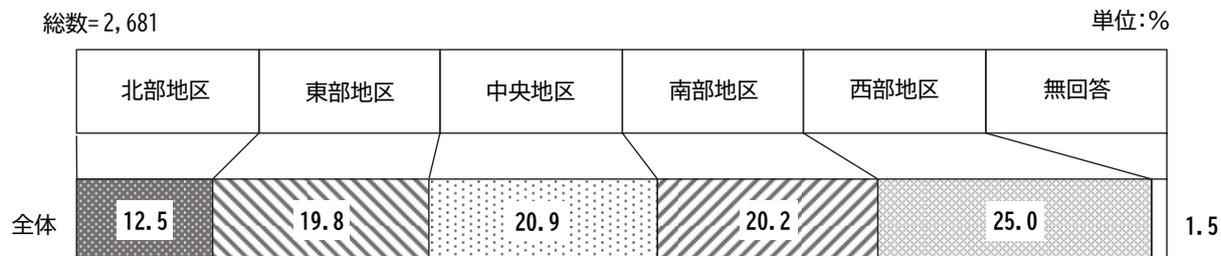


## (9) 居住地区

問9 あなたは、どの地域にお住まいですか。地区名の番号に〇をつけてください。(〇は1つ)

回答者の居住地区は、「西部地区」の割合が25.0%で最も高く、「北部地区」が12.5%で最も低い。

図表4-1-11 居住地区



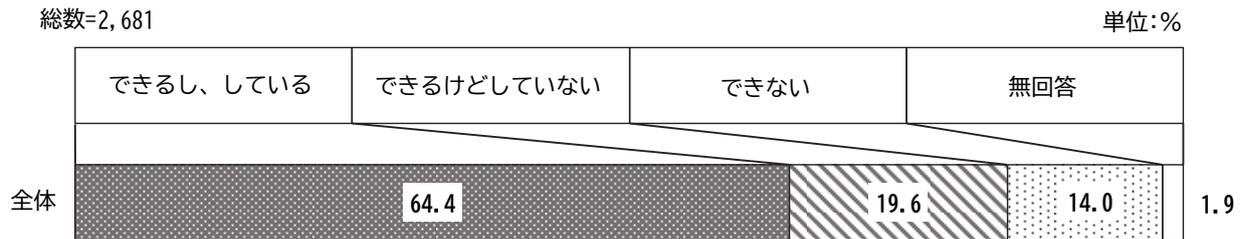
## 2 からだを動かすことについて

### (1) 運動機能の状況

問10 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○は1つ)

「できるし、している」は64.4%、「できるけどしていない」は19.6%、「できない」は14.0%となっている。

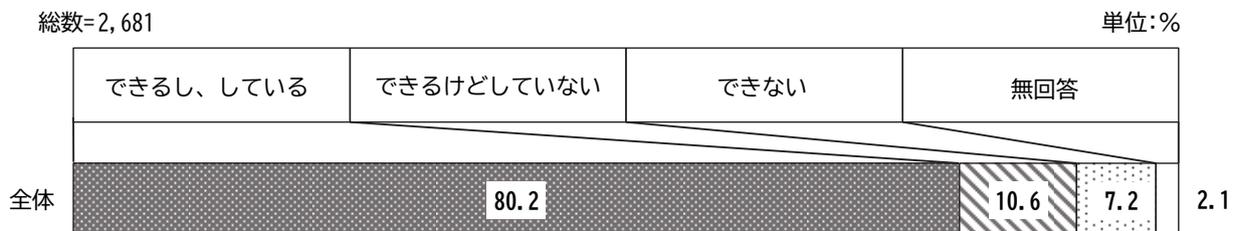
図表4-2-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇れるか



問11 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つ)

「できるし、している」は80.2%、「できるけどしていない」は10.6%、「できない」は7.2%となっている。

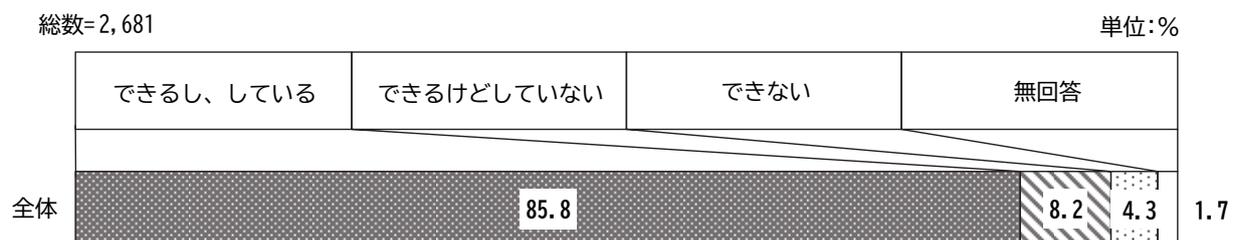
図表4-2-2 椅子に座った状態から立ち上がれるか



問12 15分位続けて歩いていますか。(○は1つ)

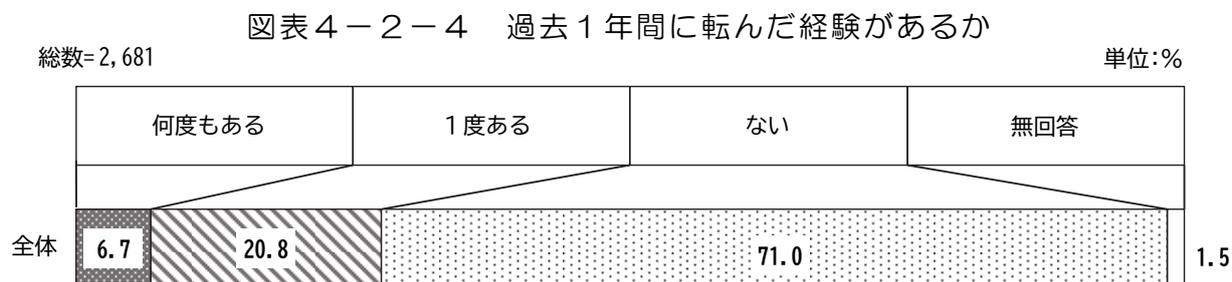
「できるし、している」は85.8%、「できるけどしていない」は8.2%、「できない」は4.3%となっている。

図表4-2-3 15分位続けて歩けるか



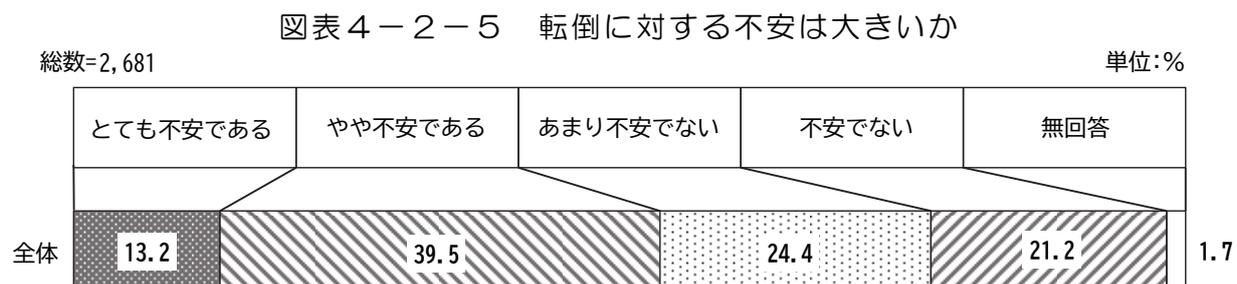
問13 過去1年間に転んだ経験がありますか。(〇は1つ)

「ない」は71.0%、「1度ある」は20.8%、「何度もある」は6.7%となっている。



問14 転倒に対する不安は大きいですか。(〇は1つ)

「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』と回答した人の割合は52.7%、「あまり不安でない」と「不安でない」を合わせた『不安でない』と回答した人の割合は45.6%となっている。

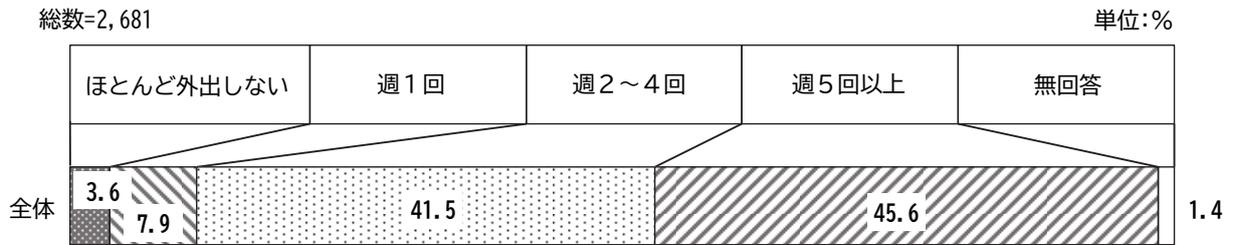


(2) 外出の状況

問15 週に1回以上は外出していますか。(〇は1つ)

「週5回以上」は45.6%、「週2～4回」は41.5%、「週1回」は7.9%、「ほとんど外出しない」は3.6%となっている。

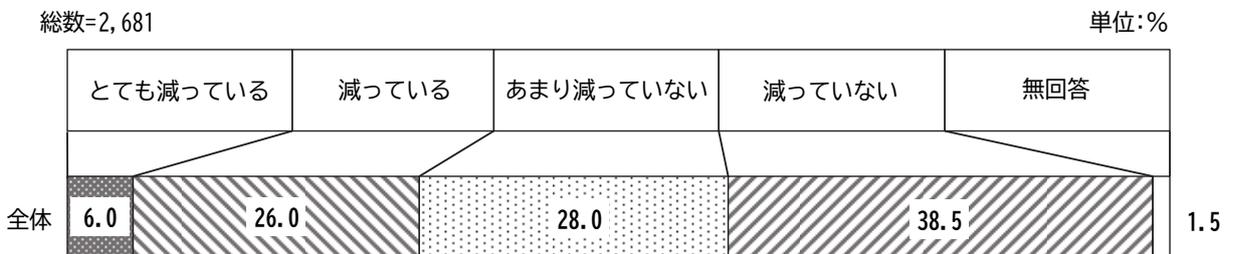
図表4-2-6 週あたりの外出回数



問16 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(〇は1つ)

「あまり減っていない」と「減っていない」を合わせた『減っていない』と回答した人の割合は66.5%、「減っている」と「とても減っている」を合わせた『減っている』と回答した人の割合は32.0%となっている。

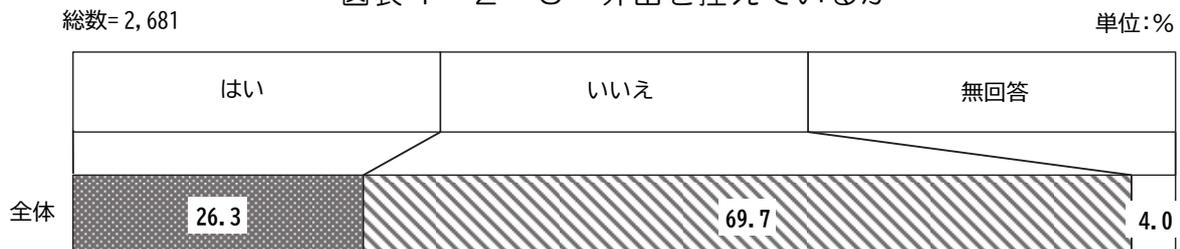
図表4-2-7 外出回数の昨年との比較



問17 外出を控えていますか。(〇は1つ)

「いいえ」は69.7%、「はい」は26.3%となっている。

図表4-2-8 外出を控えているか



外出を控えている人を性別でみると、男性が21.0%、女性が30.2%であり、女性が男性を9.2ポイント上回っている。

年齢階級別にみると、年齢が高くなるにつれて外出を控える割合が高くなるが、男性は「85～89歳」以上、女性は「90歳以上」の年齢階級で、外出を控える人の割合が特に高くなっている。

図表4-2-9 外出を控えているか（性別・年齢階級別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,681 100.0	705 26.3	1,868 69.7	108 4.0
性別・年齢階級	男性全体	1,108 100.0	233 21.0	833 75.2	42 3.8
	65～69歳	253 100.0	33 13.0	217 85.8	3 1.2
	70～74歳	303 100.0	56 18.5	236 77.9	11 3.6
	75～79歳	246 100.0	47 19.1	188 76.4	11 4.5
	80～84歳	180 100.0	47 26.1	124 68.9	9 5.0
	85～89歳	88 100.0	32 36.4	51 58.0	5 5.7
	90歳以上	37 100.0	18 48.6	16 43.2	3 8.1
	女性全体	1,535 100.0	463 30.2	1,009 65.7	63 4.1
	65～69歳	306 100.0	76 24.8	221 72.2	9 2.9
	70～74歳	385 100.0	108 28.1	269 69.9	8 2.1
	75～79歳	356 100.0	102 28.7	236 66.3	18 5.1
	80～84歳	258 100.0	84 32.6	166 64.3	8 3.1
	85～89歳	157 100.0	50 31.8	95 60.5	12 7.6
	90歳以上	71 100.0	42 59.2	21 29.6	8 11.3
	その他・無回答	38 100.0	9 23.7	26 68.4	3 7.9

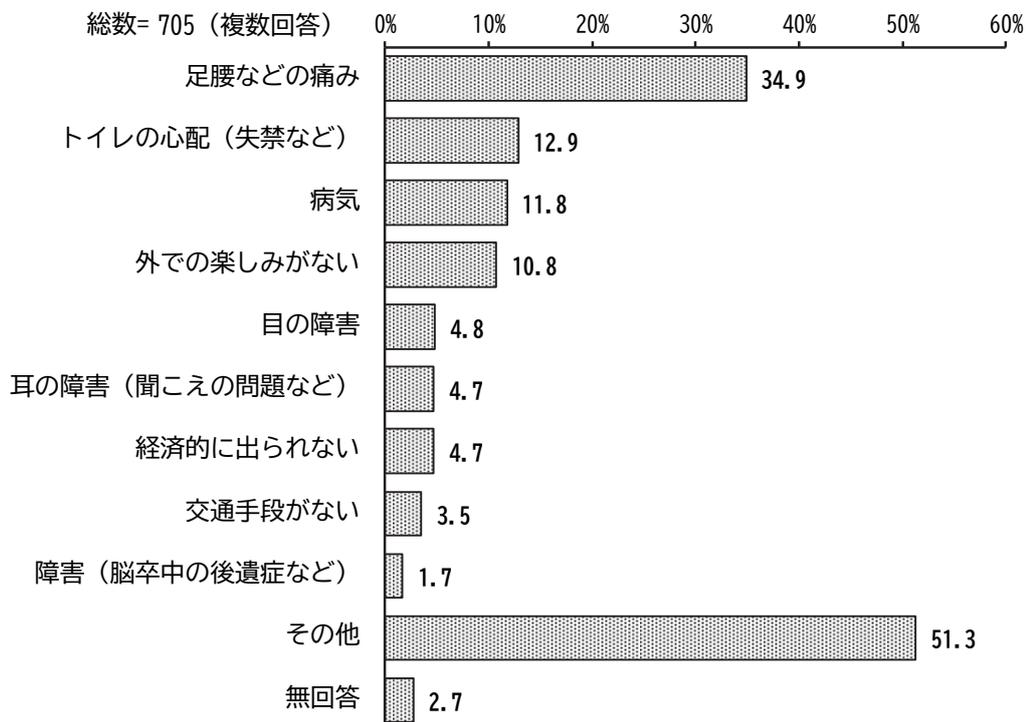
【問17において「1. はい」(外出を控えている)の方におたずねします。】

問17-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

外出を控えている理由は、「その他」以外では「足腰などの痛み」が34.9%で最も高く、次いで「トイレの心配(失禁など)」が12.9%、「病気」が11.8%、「外での楽しみがない」が10.8%となっている。

また、「その他」については、新型コロナウイルス感染症の感染予防や感染への不安を理由とする回答が多かった。

図表4-2-10 外出を控えている理由



### 3 食べることについて

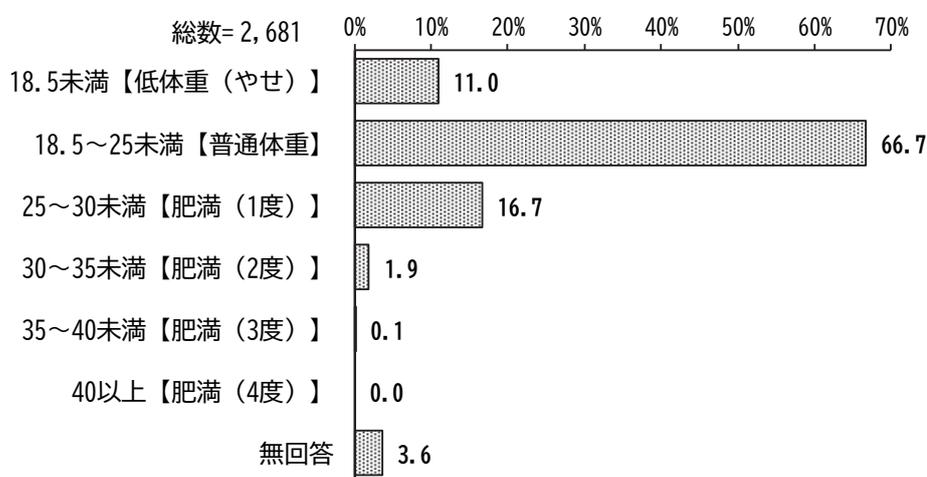
#### (1) やせ・肥満の状況

問18 身長・体重（数字を記入してください。）

BMIをみると、「18.5～25未満【普通体重】」の割合が66.7%で最も高く、次いで「25～30未満【肥満（1度）】」が16.7%、「18.5未満【低体重（やせ）】」が11.0%となっている。

※BMI = [体重 (kg)] ÷ [身長 (m) の2乗]

図表4-3-1 BMI値

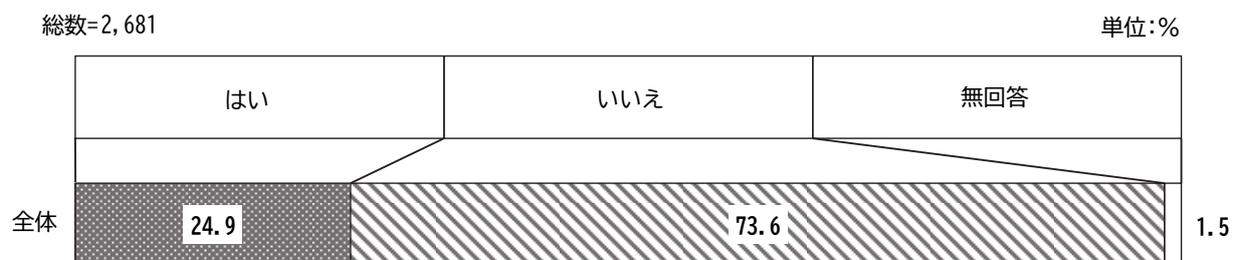


#### (2) 歯・口腔の状況

問19 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。（○は1つ）

「いいえ」は73.6%、「はい」は24.9%となっている。

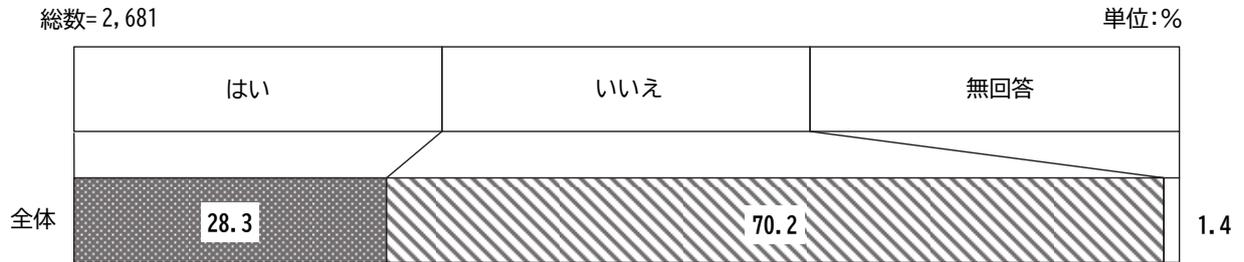
図表4-3-2 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



問20 お茶や汁物等でむせることがありますか。(〇は1つ)

「いいえ」は70.2%、「はい」は28.3%となっている。

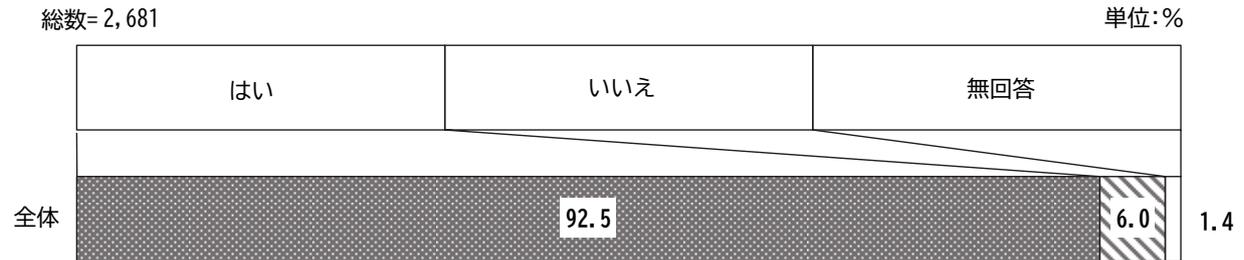
図表4-3-3 お茶や汁物等でむせることがあるか



問21 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。(〇は1つ)

「はい」は92.5%、「いいえ」は6.0%となっている。

図表4-3-4 歯磨きを毎日しているか

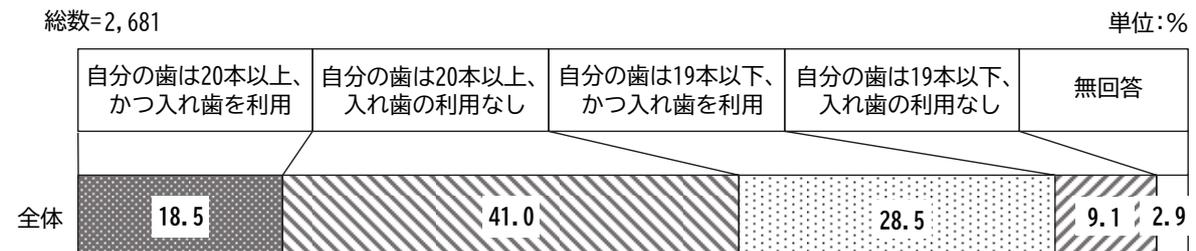


問22 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(〇は1つ)

(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。)

「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が41.0%で最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が28.5%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が18.5%となっている。

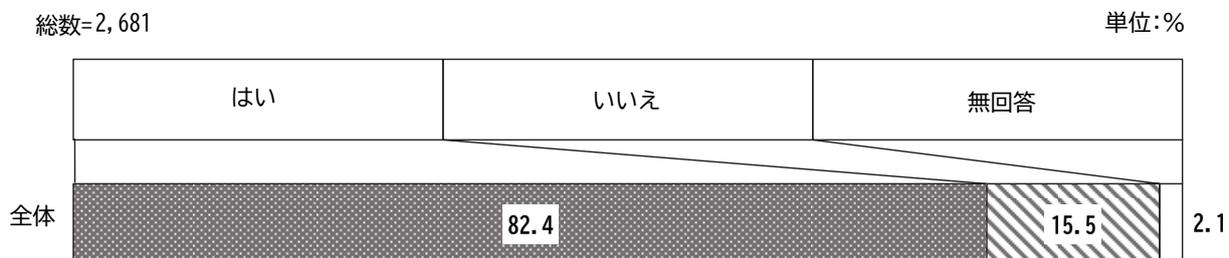
図表4-3-5 歯の数と入れ歯の利用状況



問23 噛み合わせは良いですか。(〇は1つ)

「はい」は82.4%、「いいえ」は15.5%となっている。

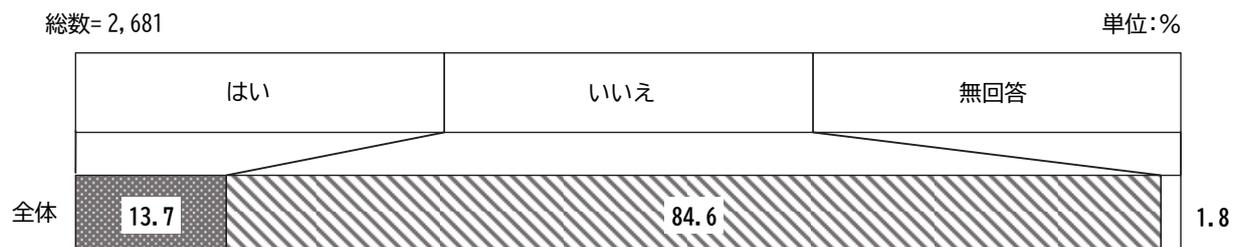
図表4-3-6 歯の噛み合わせは良いか



問24 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(〇は1つ)

「いいえ」は84.6%、「はい」は13.7%となっている。

図表4-3-7 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか

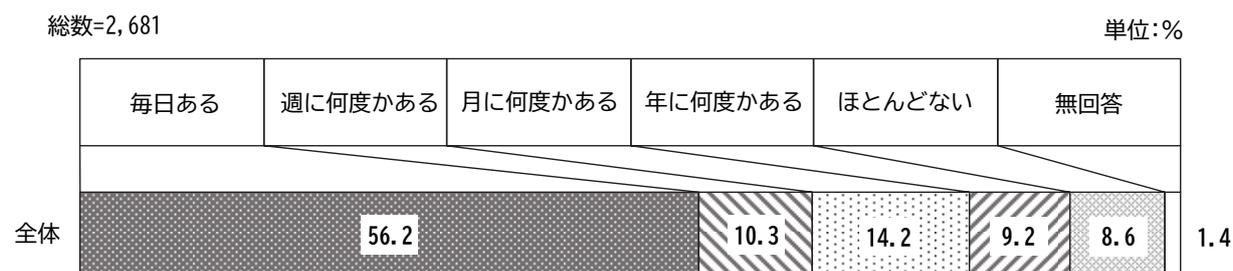


### (3) 食事の状況

問25 どなたかと食事をとる機会がありますか。(〇は1つ)

「毎日ある」の割合が56.2%で最も高く、次いで「月に何度かある」が14.2%、「週に何度かある」が10.3%となっている。

図表4-3-8 誰かと食事をとる機会

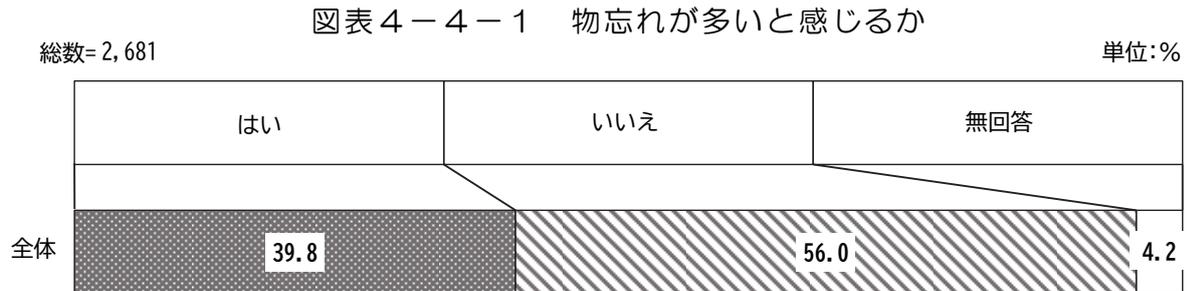


## 4 毎日の生活について

### (1) 物忘れの状況

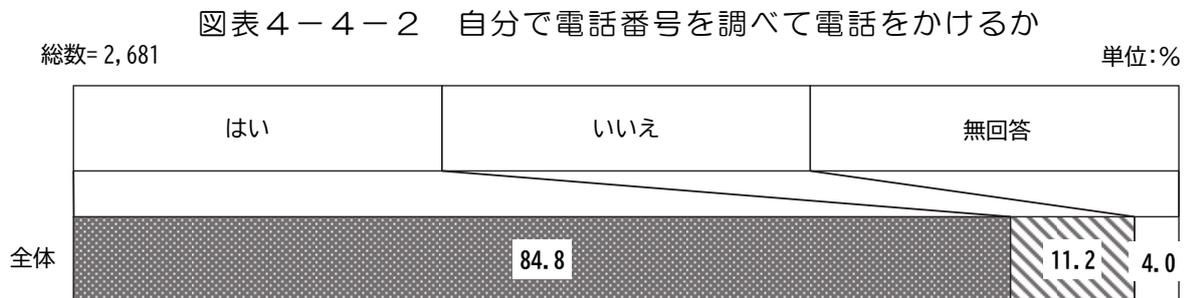
問26 物忘れが多いと感じますか。(〇は1つ)

「いいえ」は56.0%、「はい」は39.8%となっている。



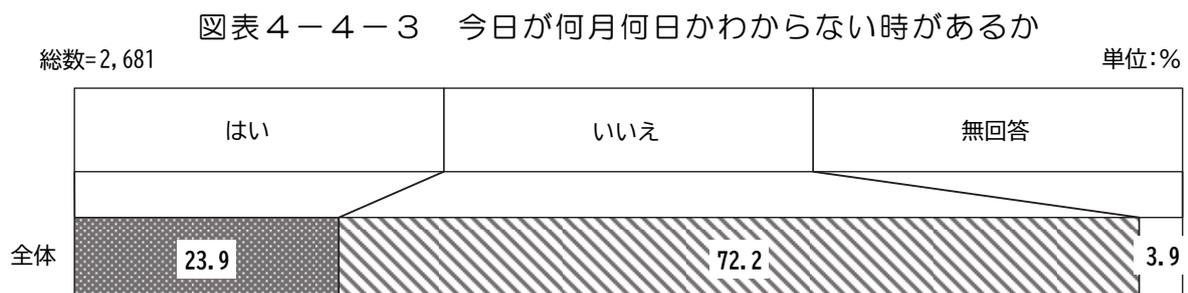
問27 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(〇は1つ)

「はい」は84.8%、「いいえ」は11.2%となっている。



問28 今日が何月何日かわからない時がありますか。(〇は1つ)

「いいえ」は72.2%、「はい」は23.9%となっている。

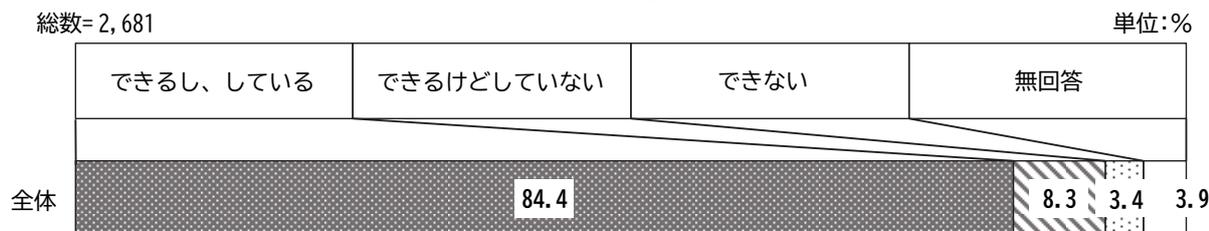


## (2) 日常生活の状況

問29 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)(○は1つ)

「できるし、している」は84.4%、「できるけどしていない」は8.3%、「できない」は3.4%となっている。

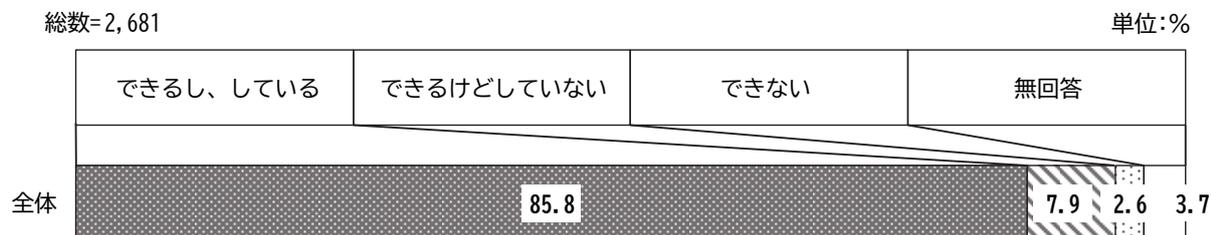
図表4-4-4 バスや電車を使って1人で外出しているか



問30 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(○は1つ)

「できるし、している」は85.8%、「できるけどしていない」は7.9%、「できない」は2.6%となっている。

図表4-4-5 自分で食品・日用品の買い物をしているか



問31 自分で食事の用意をしていますか。(○は1つ)

「できるし、している」は75.3%、「できるけどしていない」は15.5%、「できない」は5.4%となっている。

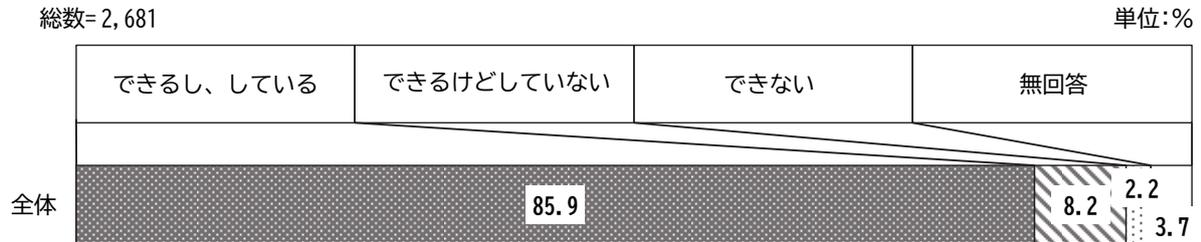
図表4-4-6 自分で食事の用意をしているか



問32 自分で請求書の支払いをしていますか。(〇は1つ)

「できるし、している」は85.9%、「できるけどしていない」は8.2%、「できない」は2.2%となっている。

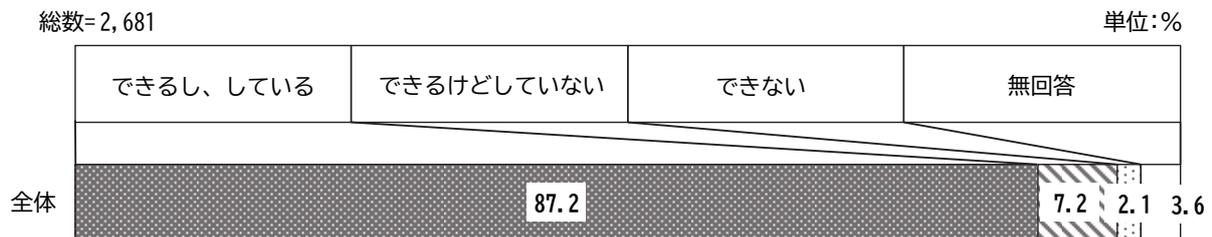
図表4-4-7 自分で請求書の支払いをしているか



問33 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(〇は1つ)

「できるし、している」は87.2%、「できるけどしていない」は7.2%、「できない」は2.1%となっている。

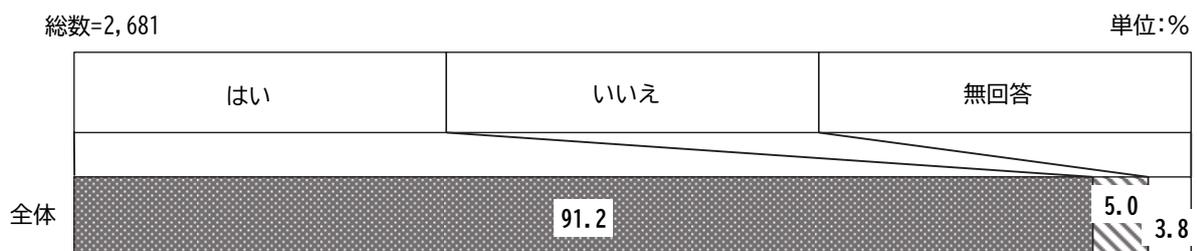
図表4-4-8 自分で預貯金の出し入れをしているか



問34 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。(〇は1つ)

「はい」は91.2%、「いいえ」は5.0%となっている。

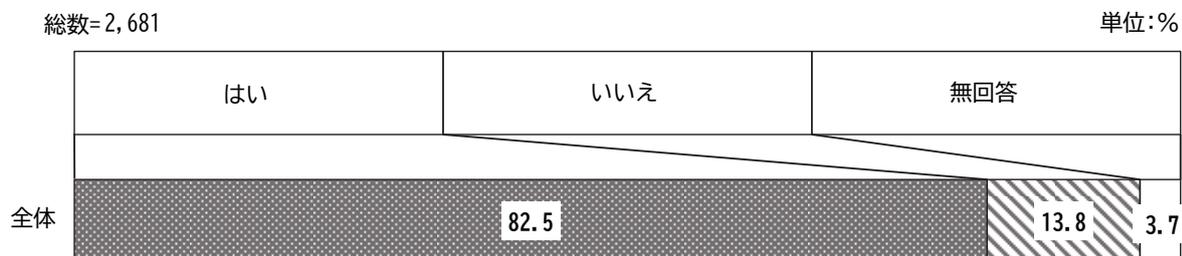
図表4-4-9 年金などの書類を書けるか



問35 本や雑誌を読んでいますか。(〇は1つ)

「はい」は82.5%、「いいえ」は13.8%となっている。

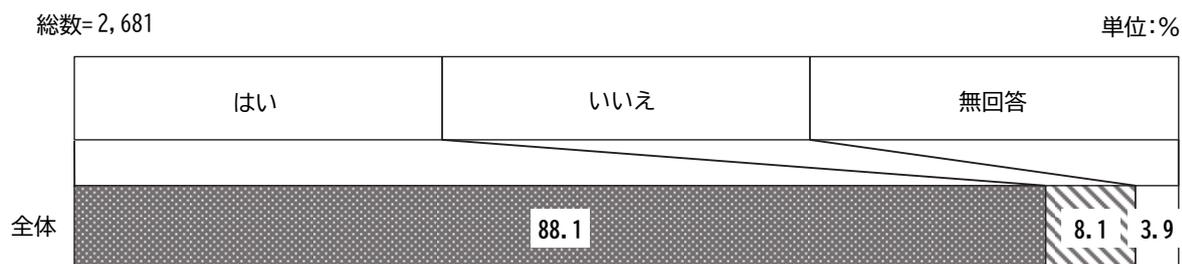
図表4-4-10 本や雑誌を読んでいるか



問36 健康についての記事や番組に関心がありますか。(〇は1つ)

「はい」は88.1%、「いいえ」は8.1%となっている。

図表4-4-11 健康についての記事や番組に関心があるか

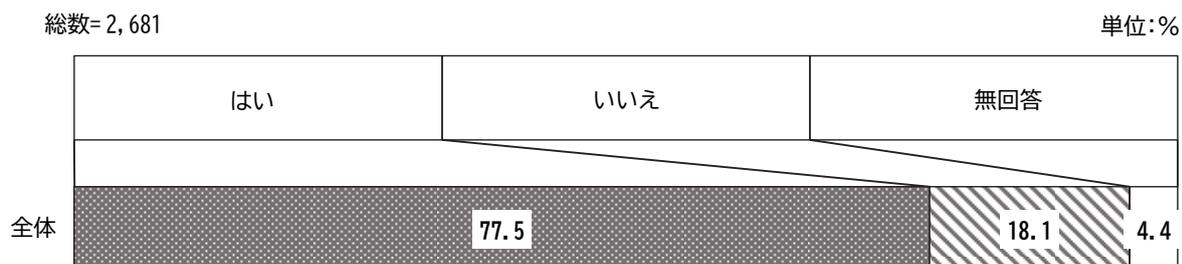


### (3) 人との交流の状況

問37 家族や友人の相談にのっていますか。(〇は1つ)

「はい」は77.5%、「いいえ」は18.1%となっている。

図表4-4-12 家族や友人の相談にのっているか

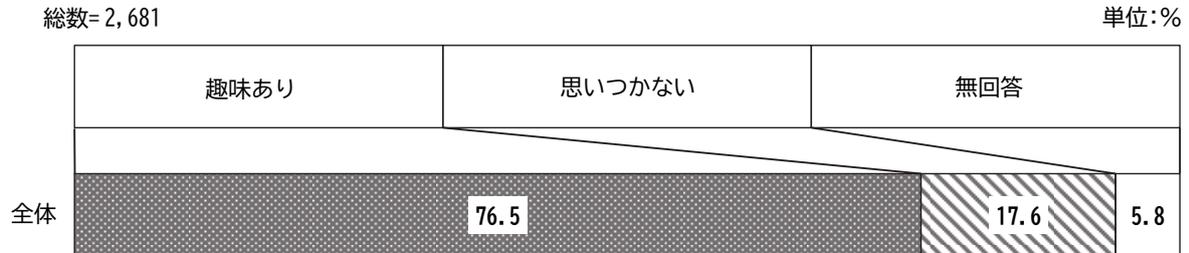


(4) 趣味・生きがい

問38 趣味はありますか。(〇は1つ)

「趣味あり」は76.5%、「思いつかない」は17.6%となっている。

図表4-4-13 趣味はあるか



問39 生きがいはありますか。(〇は1つ)

「生きがいあり」は64.2%、「思いつかない」は27.3%となっている。

図表4-4-14 生きがいはあるか

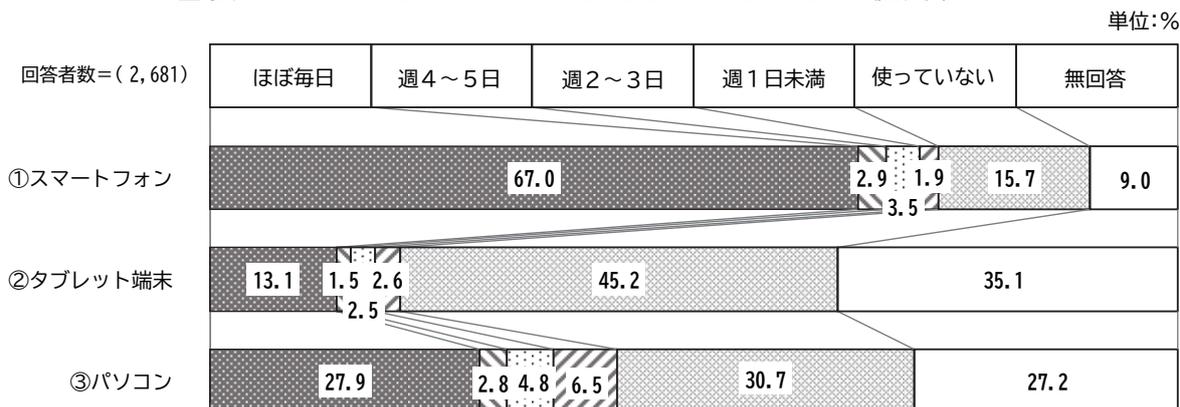


## (5) スマートフォン・パソコンの使用状況

問40 スマートフォンやパソコンは使用していますか。(それぞれ〇は1つ)

「ほぼ毎日」から「週1日未満」を合わせた『使っている』と回答した人の割合は、①スマートフォンで75.3%、②タブレット端末で19.7%、③パソコンで42.0%となっている。

図表4-4-15 スマートフォン・パソコンの使用状況

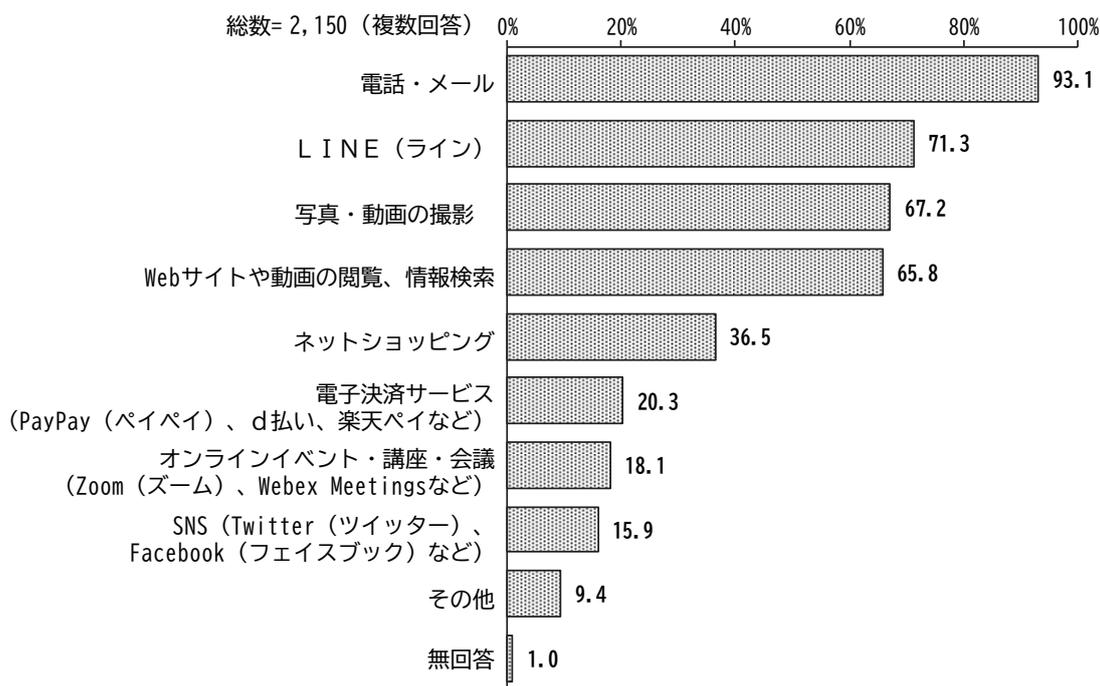


【問40において「1」「2」「3」「4」(使っている)の方におたずねします。】

問40-1 どのような使い方をしていますか。(〇はいくつでも)

スマートフォン・パソコンの使い道は、「電話・メール」の割合が93.1%で最も高く、次いで「LINE(ライン)」が71.3%、「写真・動画の撮影」が67.2%、「Webサイトや動画の閲覧、情報検索」が65.8%となっている。

図表4-4-16 スマートフォン・パソコンの使い道



スマートフォン・パソコンの使い道を性別で見ると、「LINE（ライン）」、「写真・動画の撮影」では女性が男性を10ポイント以上上回り、一方で「Webサイトや動画の閲覧、情報検索」、「ネットショッピング」では男性が女性を10ポイント以上上回っている。

年齢階級別にみると、全体的に年齢が高くなるにつれて利用している人の割合が低くなる傾向が見られるが、特に「Webサイトや動画の閲覧、情報検索」、「ネットショッピング」では、「80～84歳」以降の年齢階級の割合が特に低くなっている。

図表4-4-17 スマートフォン・パソコンの使い道（性別・年齢階級別）

（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	電話・メール	LINE（ライン）	Webサイトや動画の閲覧、情報検索	オンラインイベント・講座・会議（Zoom（ズーム）、Webex Meetingsなど）	SNS（Twitter（ツイッター）、Facebook（フェイスブック）など）	ネットショッピング	電子決済サービス（Paypay（ペイペイ）、d払い、楽天ペイなど）	写真・動画の撮影	その他	無回答
全体		2,150 100.0	2,001 93.1	1,534 71.3	1,415 65.8	390 18.1	342 15.9	784 36.5	436 20.3	1,445 67.2	203 9.4	21 1.0
性別・年齢階級	男性全体	926 100.0	852 92.0	576 62.2	669 72.2	208 22.5	178 19.2	396 42.8	214 23.1	560 60.5	113 12.2	10 1.1
	65～69歳	235 100.0	221 94.0	180 76.6	211 89.8	82 34.9	76 32.3	150 63.8	89 37.9	164 69.8	28 11.9	1 0.4
	70～74歳	269 100.0	253 94.1	186 69.1	210 78.1	60 22.3	49 18.2	111 41.3	64 23.8	178 66.2	29 10.8	2 0.7
	75～79歳	208 100.0	190 91.3	124 59.6	137 65.9	36 17.3	35 16.8	76 36.5	32 15.4	127 61.1	21 10.1	3 1.4
	80～84歳	138 100.0	125 90.6	65 47.1	74 53.6	16 11.6	9 6.5	41 29.7	18 13.0	62 44.9	17 12.3	1 0.7
	85～89歳	58 100.0	49 84.5	18 31.0	31 53.4	11 19.0	8 13.8	15 25.9	9 15.5	24 41.4	14 24.1	2 3.4
	90歳以上	17 100.0	13 76.5	2 11.8	5 29.4	3 17.6	1 5.9	2 11.8	1 5.9	5 29.4	4 23.5	1 5.9
	女性全体	1,192 100.0	1,120 94.0	932 78.2	725 60.8	176 14.8	160 13.4	381 32.0	215 18.0	864 72.5	87 7.3	11 0.9
	65～69歳	286 100.0	271 94.8	255 89.2	253 88.5	67 23.4	69 24.1	172 60.1	90 31.5	236 82.5	28 9.8	1 0.3
	70～74歳	328 100.0	311 94.8	271 82.6	212 64.6	42 12.8	38 11.6	109 33.2	63 19.2	255 77.7	20 6.1	2 0.6
	75～79歳	294 100.0	274 93.2	228 77.6	161 54.8	43 14.6	28 9.5	71 24.1	42 14.3	201 68.4	18 6.1	2 0.7
	80～84歳	169 100.0	157 92.9	109 64.5	61 36.1	16 9.5	18 10.7	18 10.7	10 5.9	111 65.7	12 7.1	4 2.4
	85～89歳	89 100.0	84 94.4	59 66.3	32 36.0	7 7.9	4 4.5	8 9.0	8 9.0	50 56.2	9 10.1	2 2.2
	90歳以上	26 100.0	23 88.5	10 38.5	6 23.1	1 3.8	3 11.5	3 11.5	2 7.7	11 42.3	-	-
	その他・無回答	32 100.0	29 90.6	26 81.3	21 65.6	6 18.8	4 12.5	7 21.9	7 21.9	21 65.6	3 9.4	-

## 5 地域での活動について

### (1) 会・グループ活動等への参加状況

問41 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(それぞれ○は1つ)

いずれの活動も「参加していない」の割合が高い。

参加者の割合が高い活動としては、「⑧収入のある仕事」に「週4回以上」が14.1%、「③趣味関係のグループ」に「月1～3回」が11.3%となっている。

図表4-5-1 会・グループ活動等への参加状況

(上段：回答数、下段：構成比)

	全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
① ボランティアのグループ	2,681 100.0	19 0.7	31 1.2	30 1.1	86 3.2	71 2.6	1,856 69.2	588 21.9
② スポーツ関係のグループやクラブ	2,681 100.0	104 3.9	193 7.2	170 6.3	100 3.7	64 2.4	1,552 57.9	498 18.6
③ 趣味関係のグループ	2,681 100.0	41 1.5	91 3.4	138 5.1	304 11.3	113 4.2	1,523 56.8	471 17.6
④ 学習・教養サークル	2,681 100.0	7 0.3	22 0.8	48 1.8	97 3.6	58 2.2	1,840 68.6	609 22.7
⑤ 「めぐろ手ぬぐい体操」などの介護予防のための通いの場	2,681 100.0	3 0.1	13 0.5	22 0.8	26 1.0	16 0.6	1,989 74.2	612 22.8
⑥ 老人クラブ	2,681 100.0	8 0.3	26 1.0	29 1.1	36 1.3	33 1.2	1,961 73.1	588 21.9
⑦ 町内会・自治会	2,681 100.0	3 0.1	12 0.4	12 0.4	67 2.5	151 5.6	1,843 68.7	593 22.1
⑧ 収入のある仕事	2,681 100.0	379 14.1	181 6.8	64 2.4	74 2.8	43 1.6	1,430 53.3	510 19.0

(2) 地域活動への参加意向

問42 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)

問43 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)

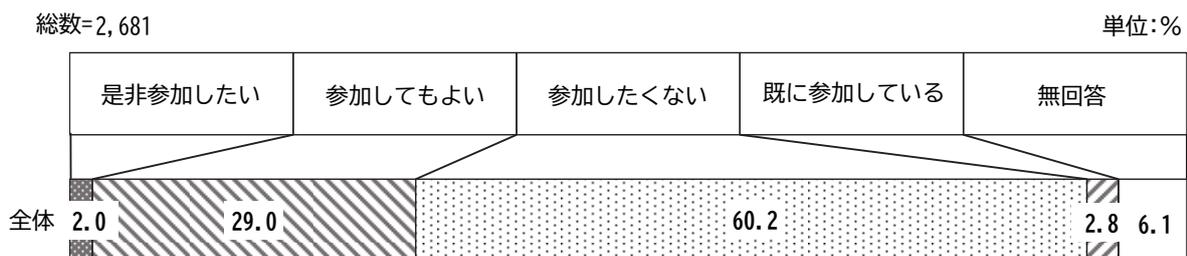
今後地域活動に参加者として参加する意向のある人の割合は、「参加してもよい」が47.2%、「是非参加したい」が5.0%となっており、半数以上の人に参加意向がある。

一方で、今後地域活動に企画・運営役として参加する意向のある人は、「参加してもよい」と「是非参加したい」を合わせると31.0%であり、参加者としての参加意向を21.2ポイント下回っている。

図表4-5-2 地域活動に参加者として参加したいか



図表4-5-3 地域活動に企画・運営役として参加したいか



## 6 たすけあいについて

### (1) 困ったときに頼る相手または頼られる相手

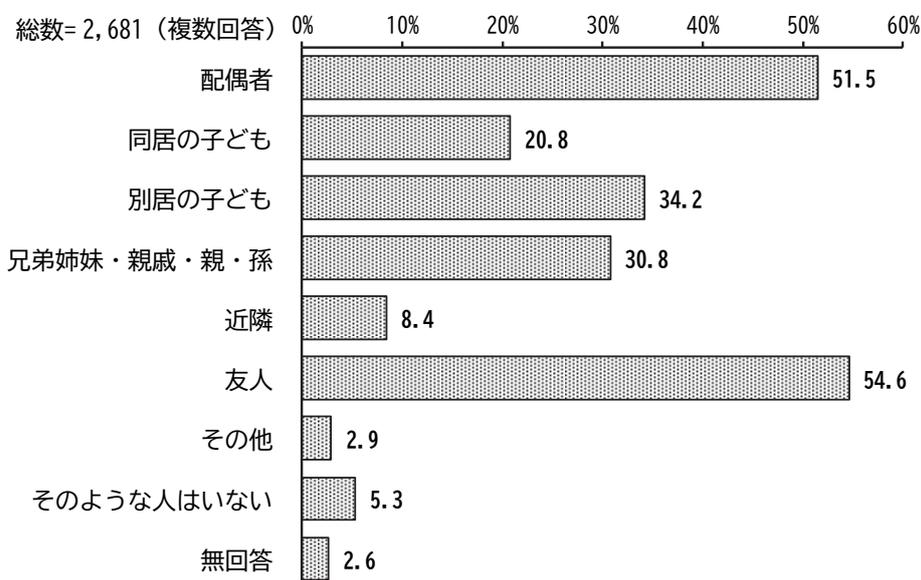
問44 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人。（〇はいくつでも）

問45 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人。（〇はいくつでも）

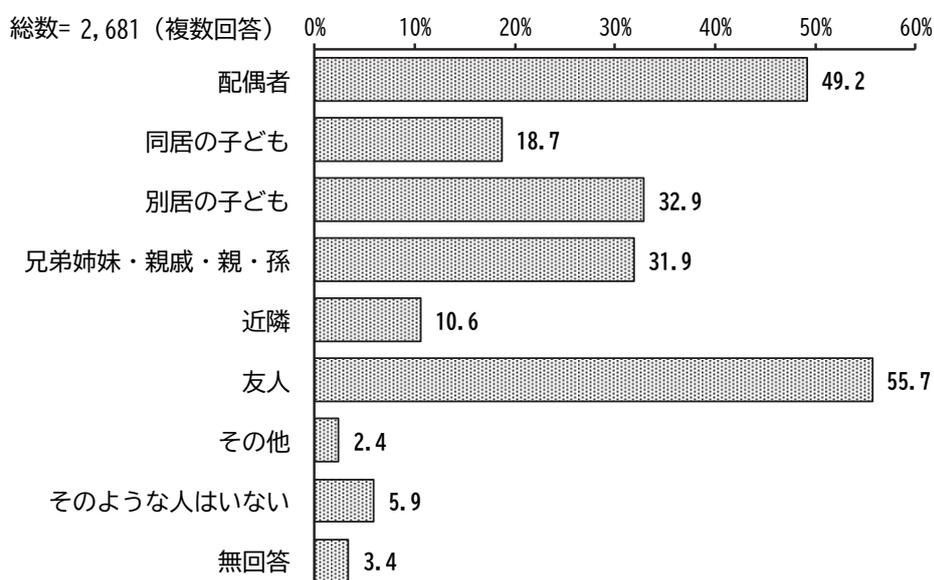
心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「友人」の割合が54.6%で最も高く、次いで「配偶者」が51.5%、「別居の子ども」が34.2%となっている。

心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「友人」の割合が55.7%で最も高く、次いで「配偶者」が49.2%、「別居の子ども」が32.9%となっている。

図表4-6-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人



図表4-6-2 心配事や愚痴を聞いてあげる人



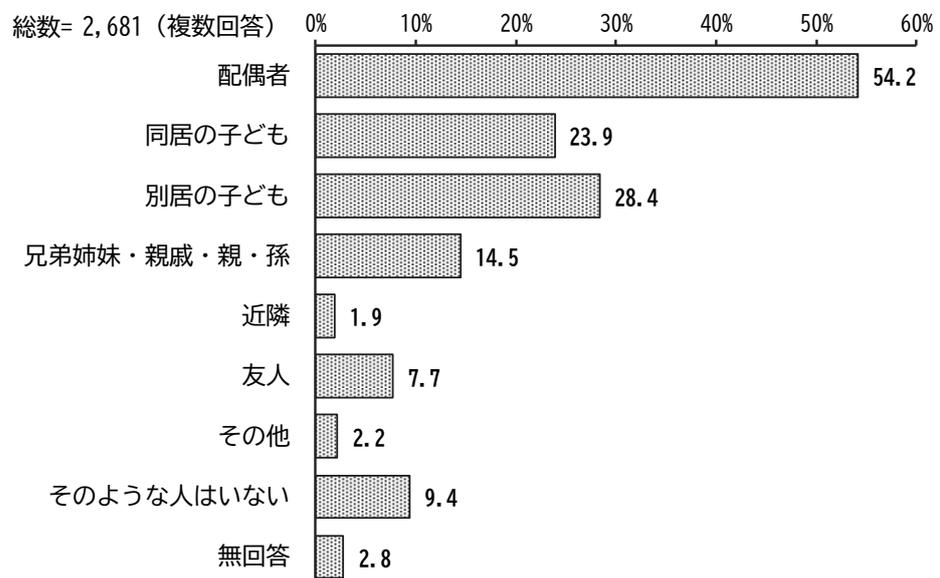
問46 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。(〇はいくつでも)

問47 反対に、看病や世話をしてあげる人。(〇はいくつでも)

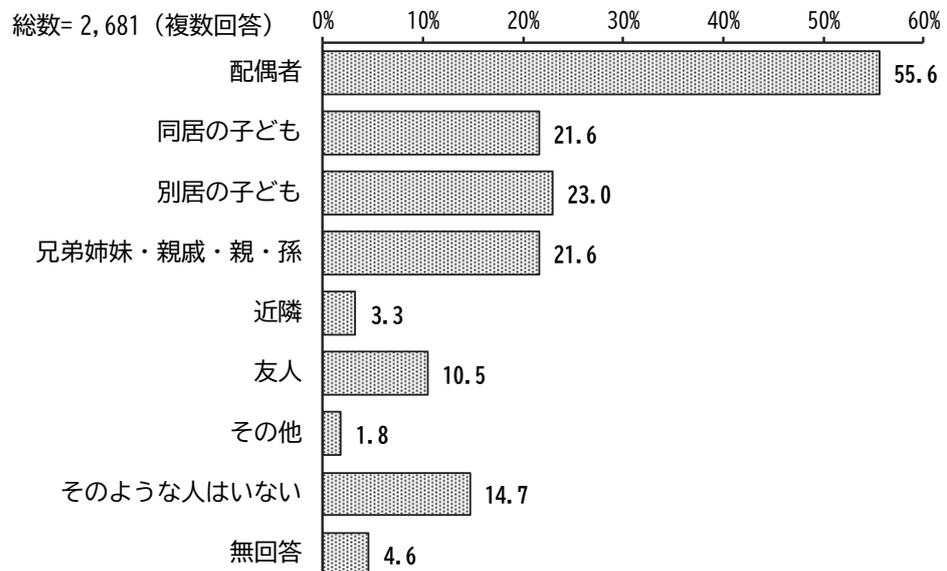
病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」の割合が54.2%で最も高く、次いで「別居の子ども」が28.4%、「同居の子ども」が23.9%となっている。

看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」が55.6%で最も高く、次いで「別居の子ども」が23.0%、「同居の子ども」が21.6%となっている。

図表4-6-3 看病や世話をしてくれる人



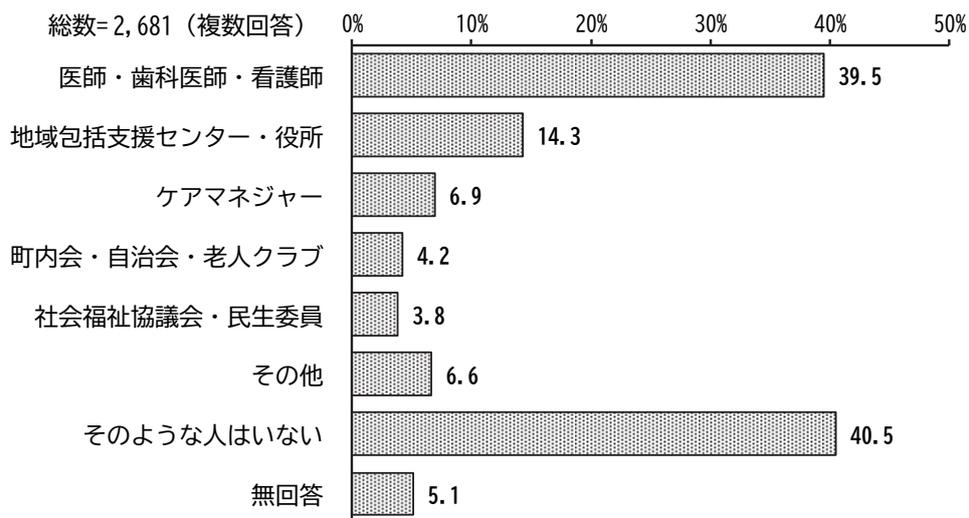
図表4-6-4 看病や世話をしてあげる人



問48 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(〇はいくつでも)

家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手は、「そのような人はいない」の割合が40.5%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が39.5%、「地域包括支援センター・役所」が14.3%となっている。

図表4-6-5 家族や友人・知人以外の相談相手

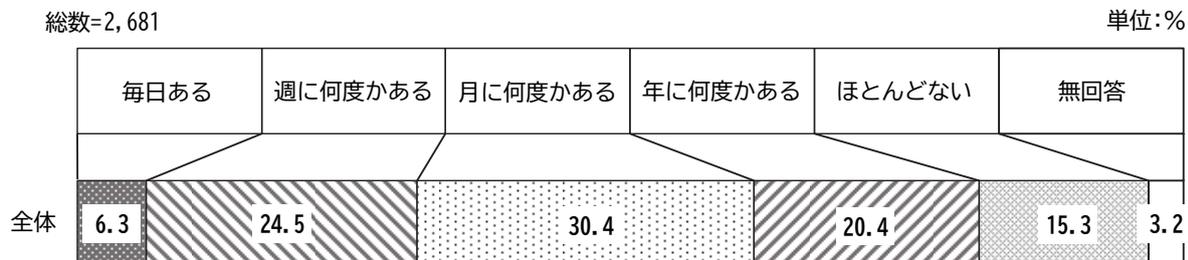


## (2) 友人・知人との交流

問49 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(〇は1つ)

友人・知人と会う頻度は、「月に何度かある」の割合が30.4%で最も高く、次いで「週に何度かある」が24.5%、「年に何度かある」が20.4%となっている。

図表4-6-6 友人・知人と会う頻度



友人・知人と会う頻度を性別・年齢階級別にみると、男性・女性ともに「月に何度かある」の割合が高いが、「90歳以上」では「ほとんどない」の割合が高くなっている。また、「ほとんどない」の割合は80歳以上の年齢区分の男性では20%を超え、女性に比べて高くなっている。

図表4-6-7 友人・知人と会う頻度（性別・年齢階級別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

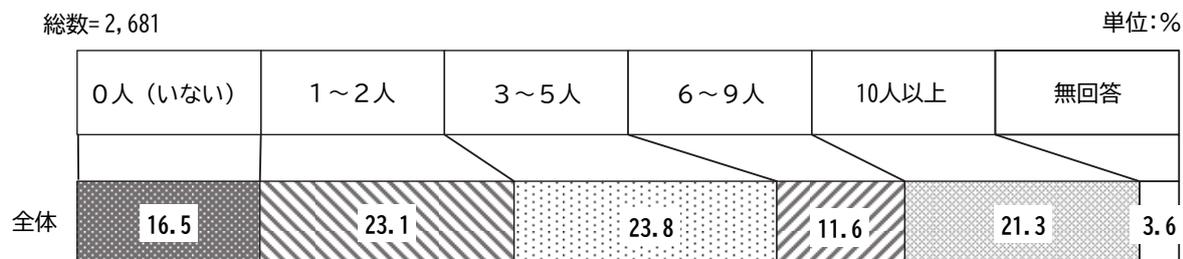
		全体	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
全体		2,681 100.0	170 6.3	656 24.5	814 30.4	546 20.4	410 15.3	85 3.2
性別・年齢階級	男性全体	1,108 100.0	66 6.0	231 20.8	316 28.5	252 22.7	209 18.9	34 3.1
	65～69歳	253 100.0	22 8.7	57 22.5	78 30.8	64 25.3	30 11.9	2 0.8
	70～74歳	303 100.0	17 5.6	61 20.1	91 30.0	67 22.1	58 19.1	9 3.0
	75～79歳	246 100.0	13 5.3	59 24.0	66 26.8	54 22.0	44 17.9	10 4.1
	80～84歳	180 100.0	11 6.1	38 21.1	43 23.9	41 22.8	39 21.7	8 4.4
	85～89歳	88 100.0	3 3.4	12 13.6	29 33.0	19 21.6	21 23.9	4 4.5
	90歳以上	37 100.0	-	3 8.1	9 24.3	7 18.9	17 45.9	1 2.7
	女性全体	1,535 100.0	100 6.5	419 27.3	485 31.6	287 18.7	197 12.8	47 3.1
	65～69歳	306 100.0	20 6.5	79 25.8	89 29.1	76 24.8	38 12.4	4 1.3
	70～74歳	385 100.0	22 5.7	117 30.4	118 30.6	71 18.4	51 13.2	6 1.6
	75～79歳	356 100.0	27 7.6	110 30.9	115 32.3	54 15.2	37 10.4	13 3.7
	80～84歳	258 100.0	17 6.6	65 25.2	90 34.9	46 17.8	27 10.5	13 5.0
	85～89歳	157 100.0	7 4.5	38 24.2	56 35.7	23 14.6	27 17.2	6 3.8
	90歳以上	71 100.0	6 8.5	10 14.1	17 23.9	16 22.5	17 23.9	5 7.0
その他・無回答	38 100.0	4 10.5	6 15.8	13 34.2	7 18.4	4 10.5	4 10.5	

問50 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。(〇は1つ)

※同じ人には何度会っても1人と数えることとします。

1か月間に友人・知人と会った人数は、「3～5人」の割合が23.8%で最も高く、次いで「1～2人」が23.1%、「10人以上」が21.3%となっている。

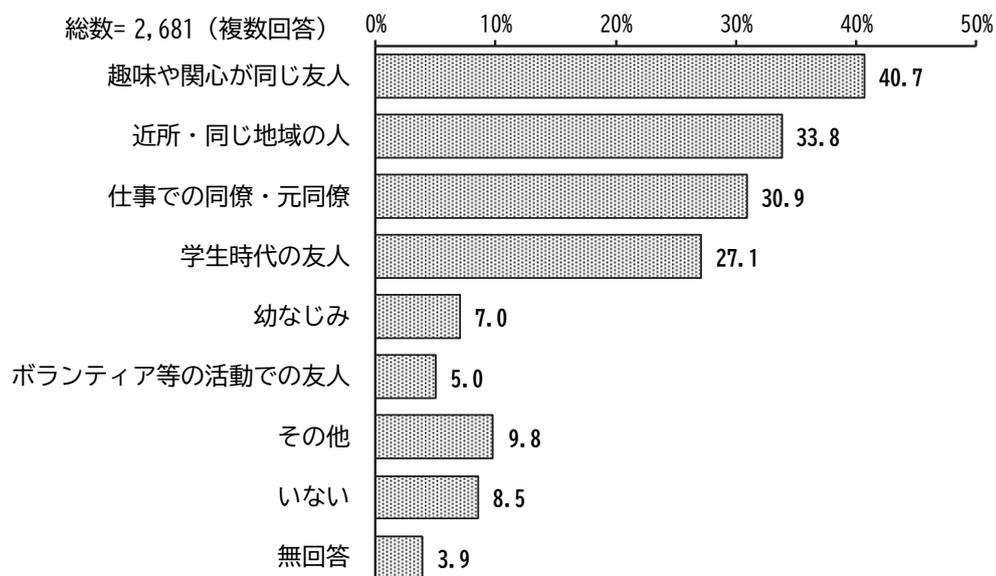
図表4-6-8 最近1か月間に会った友人・知人の人数



問51 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(〇はいくつでも)

よく合う友人・知人との関係は、「趣味や関心が同じ友人」の割合が40.7%で最も高く、次いで「近所・同じ地域の人」が33.8%、「仕事での同僚・元同僚」が30.9%となっている。

図表4-6-9 よく会う友人・知人との関係



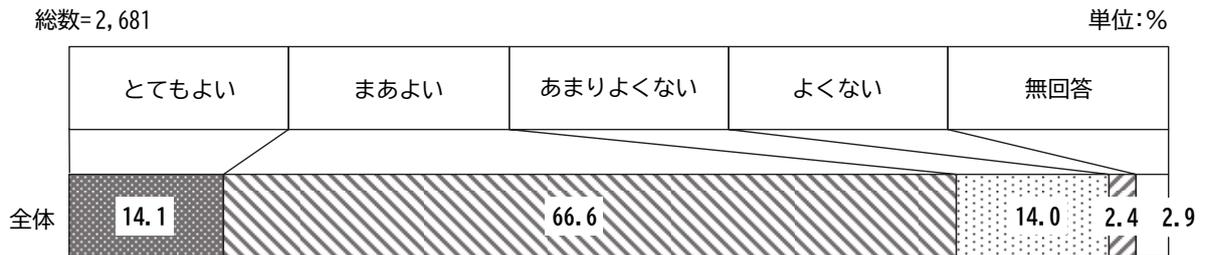
## 7 健康について

### (1) 健康状態

問52 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(〇は1つ)

現在の健康状態は、「まあよい」の割合が66.6%で最も高く、次いで「とてもよい」が14.1%、「あまりよくない」が14.0%となっている。

図表4-7-1 現在の健康状態



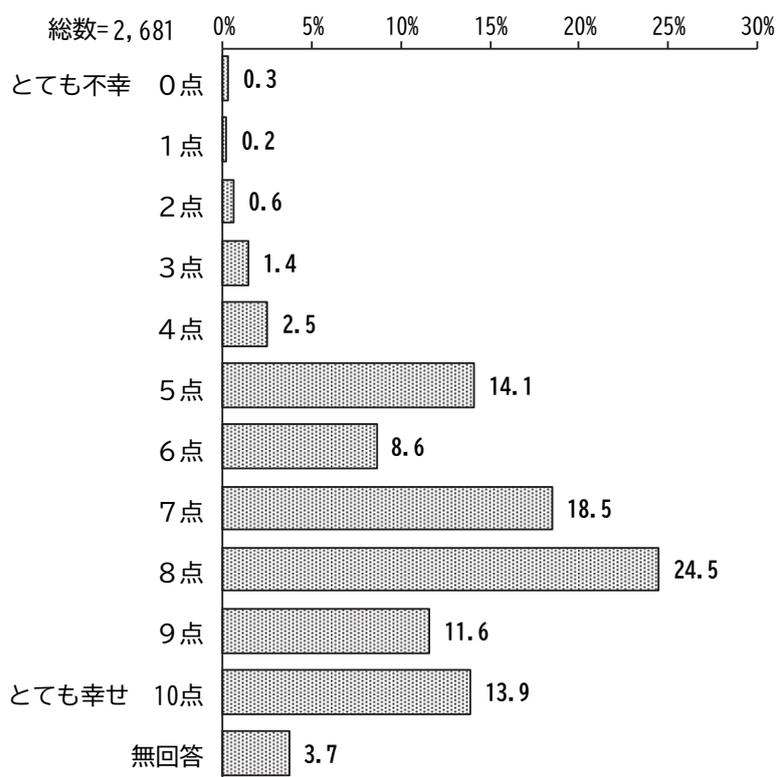
## (2) 現在の幸せの程度

問53 あなたは、現在どの程度幸せですか。

「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、数字をご記入ください。

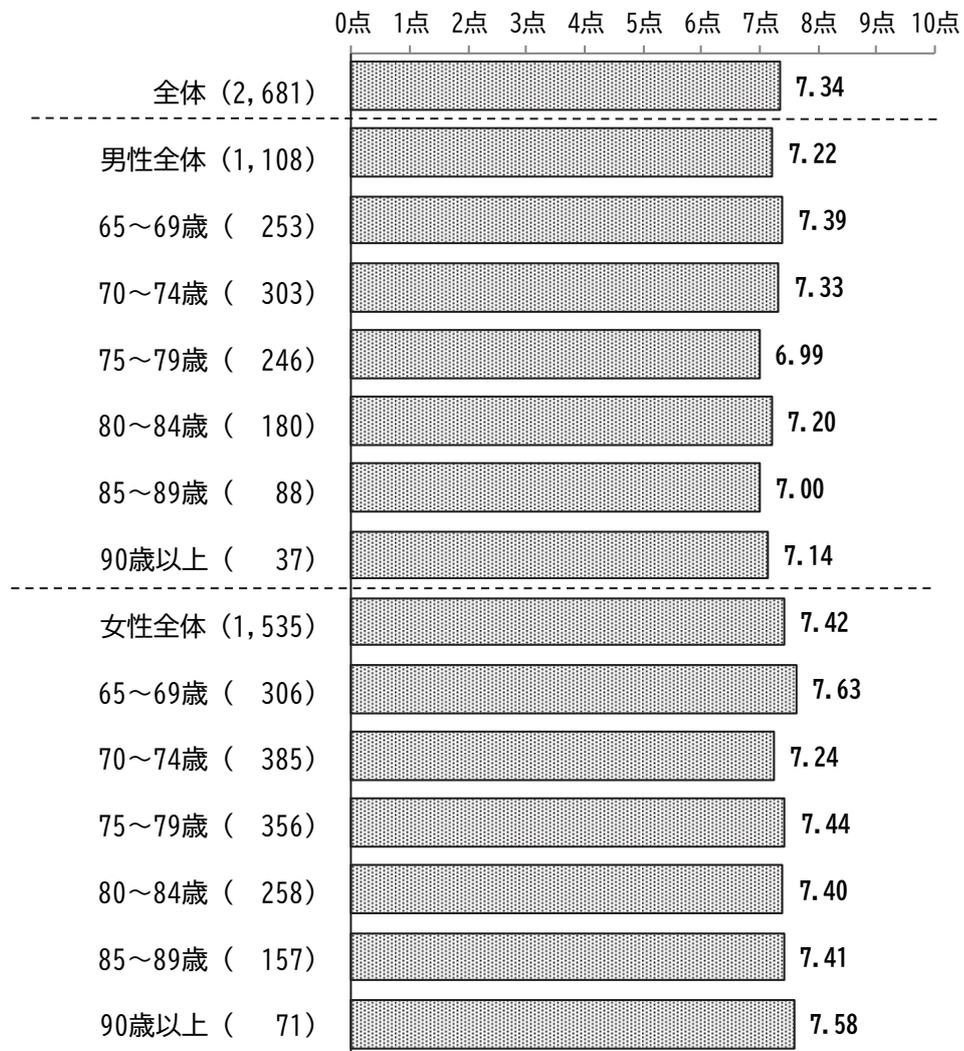
現在の幸せの程度は、「8点」の割合が24.5%で最も高く、次いで「7点」が18.5%、「5点」が14.1%となっている。また、中心点を超える「6点」～「10点」と回答した人の割合は77.1%となっている。

図表4-7-2 現在の幸せの程度



現在の幸せの点数を性別・年齢階級別にみると、極端な差はみられないが、「70～74歳」を除き女性の平均点が男性の平均点を上回っている。最も差が開いている年齢区分は「75～79歳」で、女性が男性を0.45ポイント上回っている。

図表4-7-3 現在の幸せの点数（性別・年齢階級別平均点）



### (3) こころの健康状態

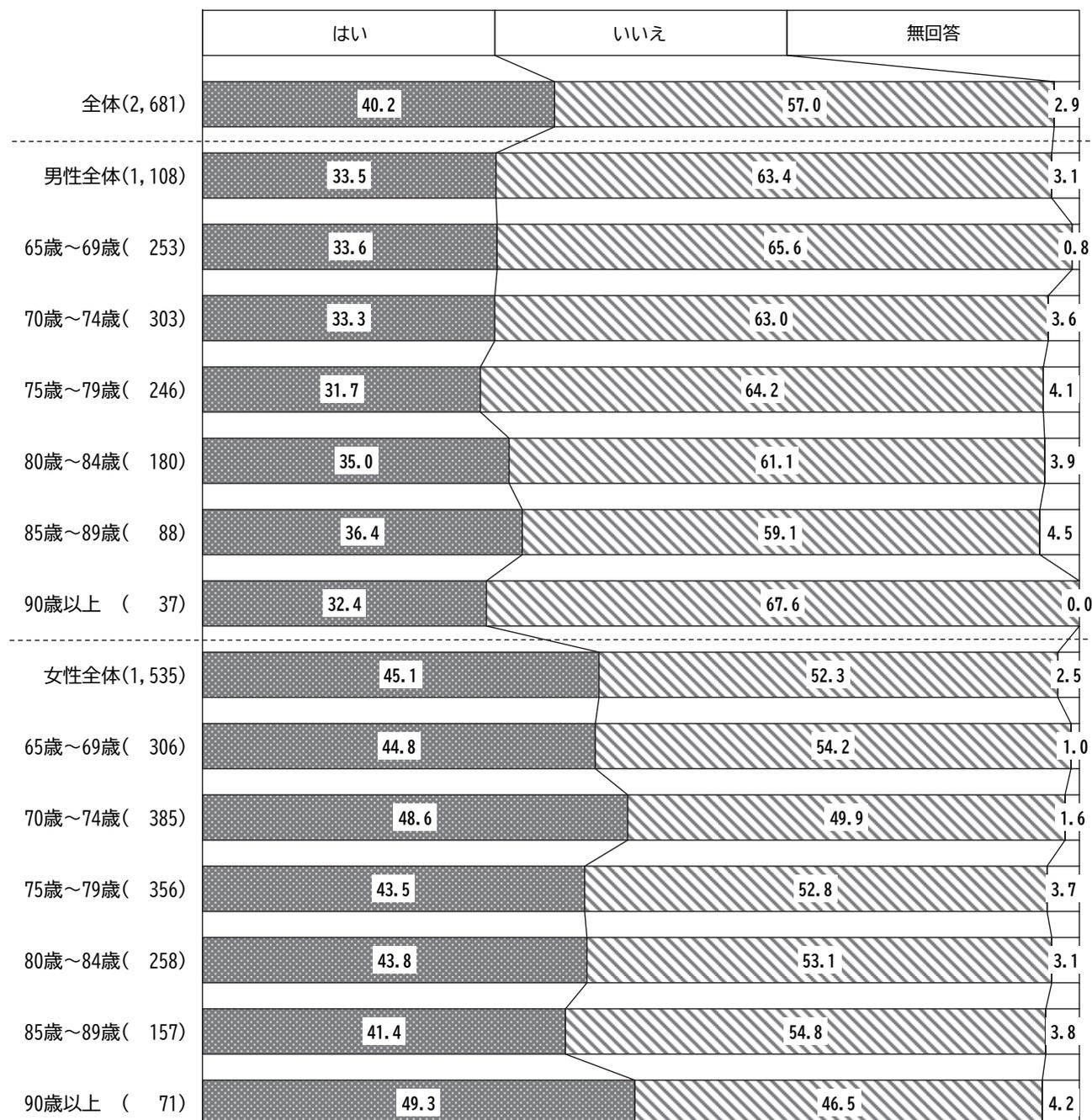
問54 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(〇は1つ)

「いいえ」は57.0%、「はい」は40.2%となっている。

また、性別・年齢階級別にみると、男性では「85～89歳」、女性では「90歳以上」の年齢階級で「はい」の割合が最も高くなっている。

図表4-7-4 最近1か月間に気分が沈むことがあったか(性別・年齢階級別)

単位:%



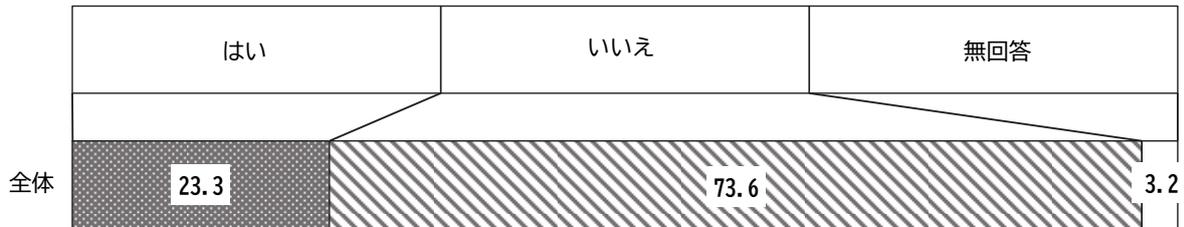
問55 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(〇は1つ)

「いいえ」は73.6%、「はい」は23.3%となっている。

図表4-7-5 最近1か月間に物事に対して興味がわかない感じがあったか

総数=2,681

単位:%



#### (4) 喫煙状況

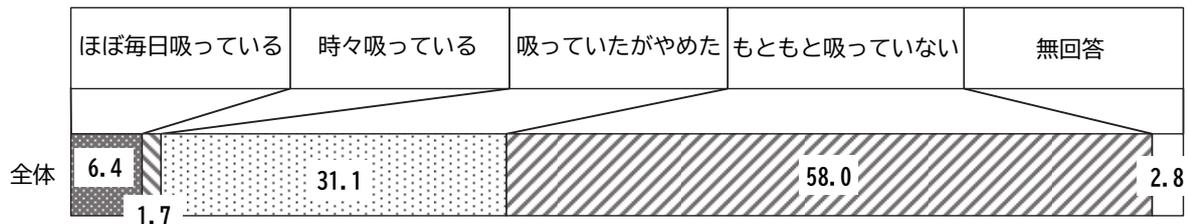
問56 タバコは吸っていますか。(〇は1つ)

「もともと吸っていない」と「吸っていたがやめた」を合わせた、現在『吸っていない』の割合は89.1%となっている。一方、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた、『吸っている』の割合は8.1%となっている。

図表4-7-6 喫煙の有無

総数=2,681

単位:%

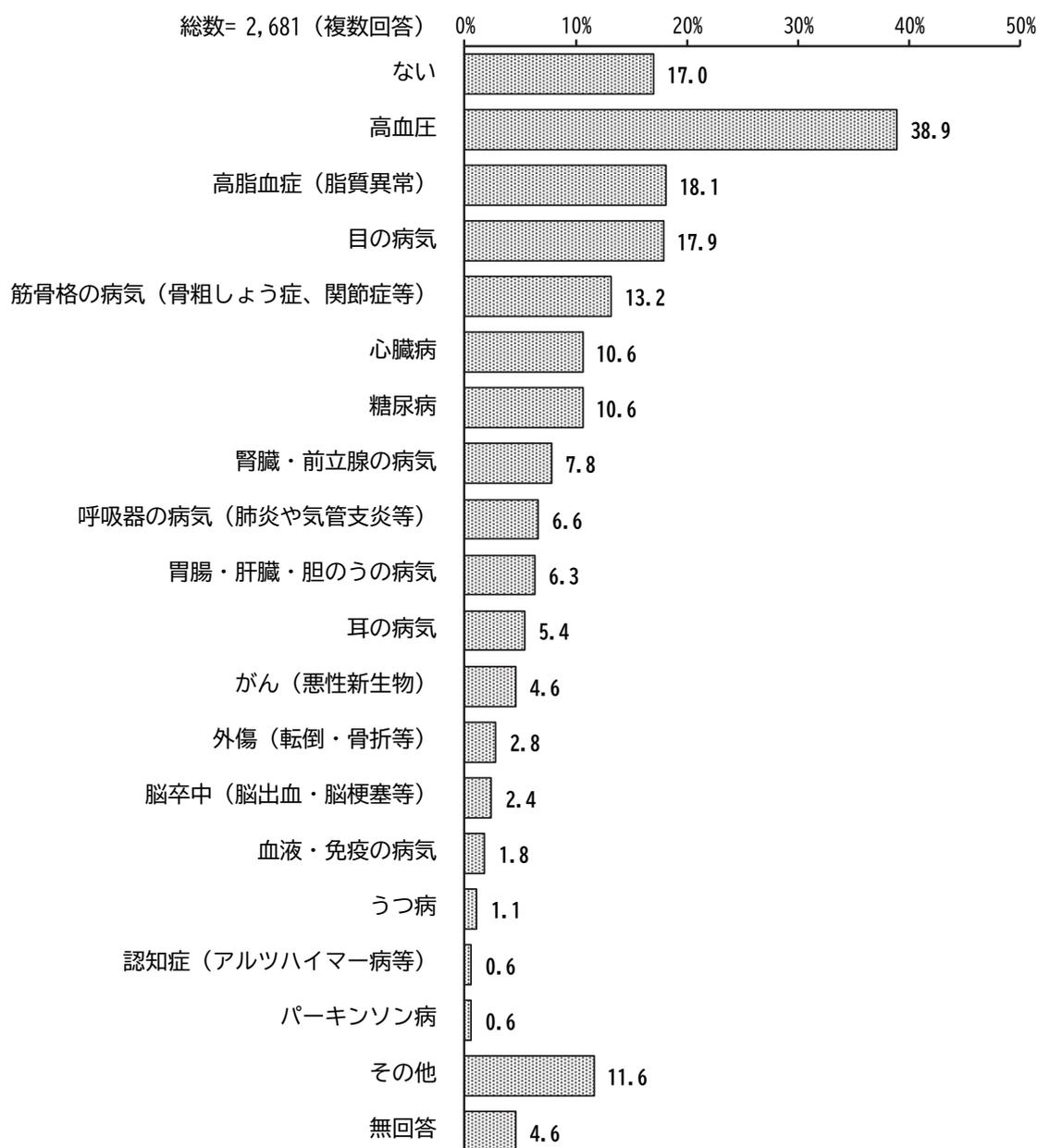


## (5) 疾病の状況

問57 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(〇はいくつでも)

「高血圧」の割合が38.9%で最も高く、次いで「高脂血症（脂質異常）」が18.1%、「目の病気」が17.9%となっている。また、「ない」は17.0%となっている。

図表4-7-7 治療中または後遺症のある病気の有無

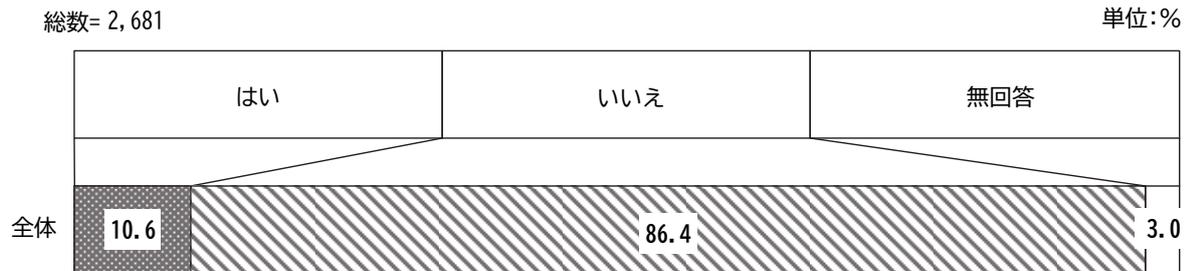


## 8 認知症に関する相談窓口の把握について

問58 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。(〇は1つ)

「いいえ」は86.4%、「はい」は10.6%となっている。

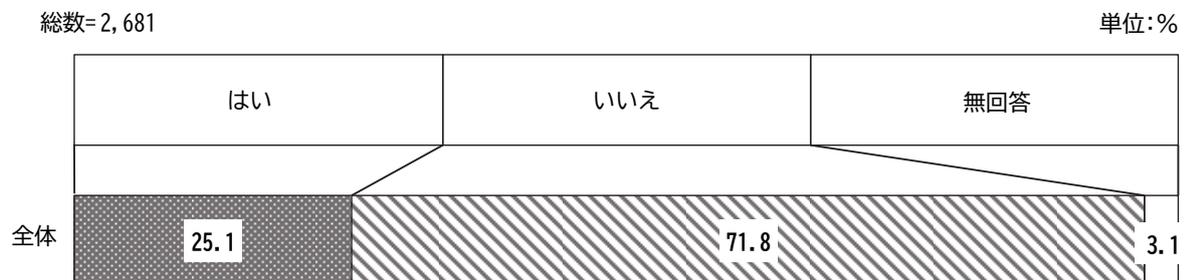
図表4-8-1 本人・家族に認知症の症状がある人がいるか



問59 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(〇は1つ)

「いいえ」は71.8%、「はい」は25.1%となっている。

図表4-8-2 認知症に関する相談窓口を知っているか

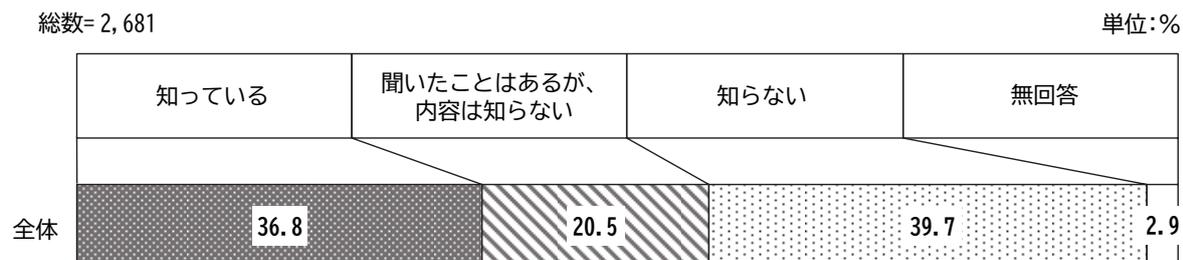


## 9 介護予防について

問60 「フレイル」について知っていますか。(〇は1つ)

「フレイル」について、「知らない」の割合が39.7%で最も高く、次いで「知っている」が36.8%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が20.5%となっている。

図表4-9-1 「フレイル」の認知度



問61 加齢による身体機能や認知機能の衰えを予防するために、実践していることはありますか。(〇は1つ)

加齢による衰え予防のため実践していることは、「ある」の割合が63.7%で最も高く、次いで「特に気にしていないため、何もしていない」が11.4%、「何かしたいと思っているが、何もしていない」が11.3%となっている。

図表4-9-2 加齢による衰え予防のための実践の有無



加齢による衰え予防のため実践していることについて性別・年齢階級別にみると、「ある」と回答した人の割合は、「85～89歳」を除き女性が男性を上回っている。一方、「特に気にしていないため、何もしていない」では全ての年齢階級で男性が女性を上回っている。

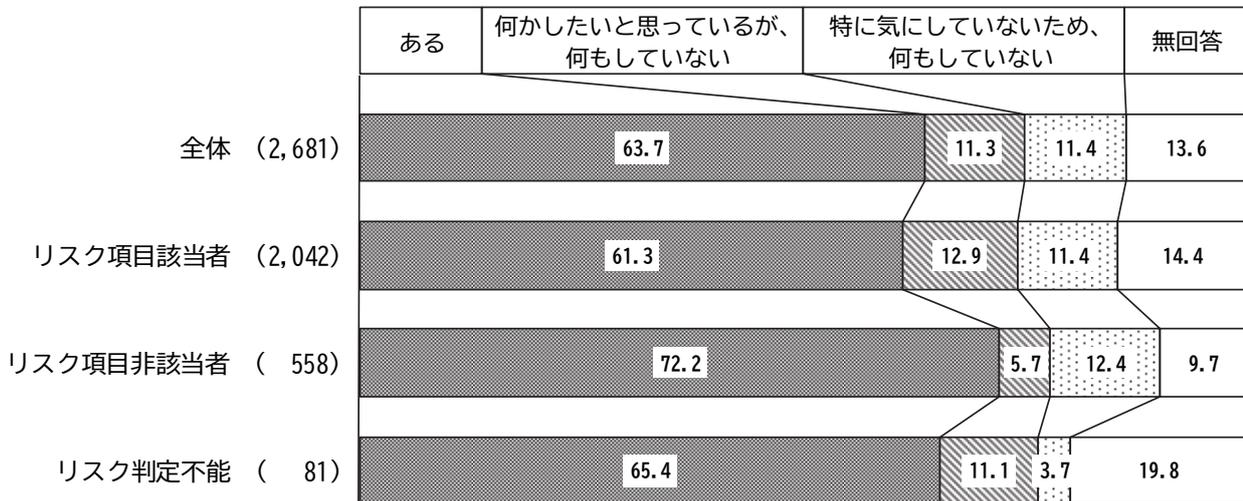
図表4-9-3 加齢による衰え予防のための実践の有無（性別・年齢階級別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	ある	何かしたいと思っ ているが、 何もしていない	特に気にして いないため、 何もして いない	無回答
全体		2,681 100.0	1,707 63.7	304 11.3	305 11.4	365 13.6
性別・ 年齢階級	男性全体	1,108 100.0	684 61.7	120 10.8	174 15.7	130 11.7
	65～69歳	253 100.0	166 65.6	29 11.5	35 13.8	23 9.1
	70～74歳	303 100.0	188 62.0	36 11.9	55 18.2	24 7.9
	75～79歳	246 100.0	156 63.4	22 8.9	34 13.8	34 13.8
	80～84歳	180 100.0	105 58.3	19 10.6	27 15.0	29 16.1
	85～89歳	88 100.0	52 59.1	9 10.2	16 18.2	11 12.5
	90歳以上	37 100.0	16 43.2	5 13.5	7 18.9	9 24.3
	女性全体	1,535 100.0	1,006 65.5	177 11.5	128 8.3	224 14.6
	65～69歳	306 100.0	225 73.5	36 11.8	16 5.2	29 9.5
	70～74歳	385 100.0	257 66.8	46 11.9	34 8.8	48 12.5
	75～79歳	356 100.0	240 67.4	37 10.4	23 6.5	56 15.7
	80～84歳	258 100.0	154 59.7	28 10.9	28 10.9	48 18.6
	85～89歳	157 100.0	92 58.6	24 15.3	15 9.6	26 16.6
	90歳以上	71 100.0	37 52.1	6 8.5	11 15.5	17 23.9
その他・無回答	38 100.0	17 44.7	7 18.4	3 7.9	11 28.9	

加齢による衰え予防のため実践していることについてリスク項目該当（P162～163参照）の有無別にみると、実践していることが「ある」と回答した人でリスク項目に該当する人は61.3%、リスク項目に該当しない人は72.2%となっている。

図表4-9-4 加齢による衰え予防のための実践の有無（リスク項目該当別）

単位:%

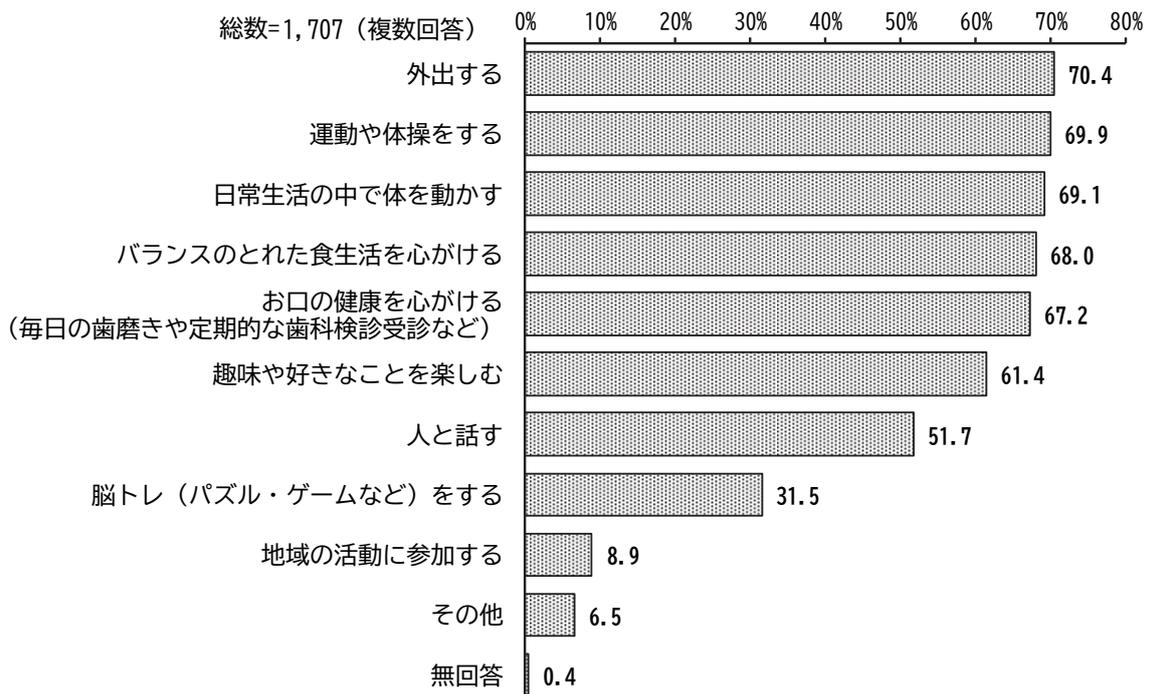


【問61において「1. ある」の方におたずねします。】

問61-1 どのようなことを実践していますか。(〇はいくつでも)

加齢による衰え予防のための実践内容は、「外出する」の割合が70.4%で最も高く、次いで「運動や体操をする」が69.9%、「日常生活の中で体を動かす」が69.1%となっている。

図表4-9-5 加齢による衰え予防のための実践内容



リスク項目別出現率を加齢による衰え予防のための実践内容別にみると、実践をしていることが「ある」と回答した人は、何もしていないに比べ、リスク項目出現率が低い（栄養改善リスクを除く）。また、「何かしたいと思っているが何もしていない」は「特に気にしていないため何もしていない」よりもリスク項目出現率が高い傾向が見られる。

図表4-9-6 リスク項目別出現率（加齢による衰え予防のための実践内容別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

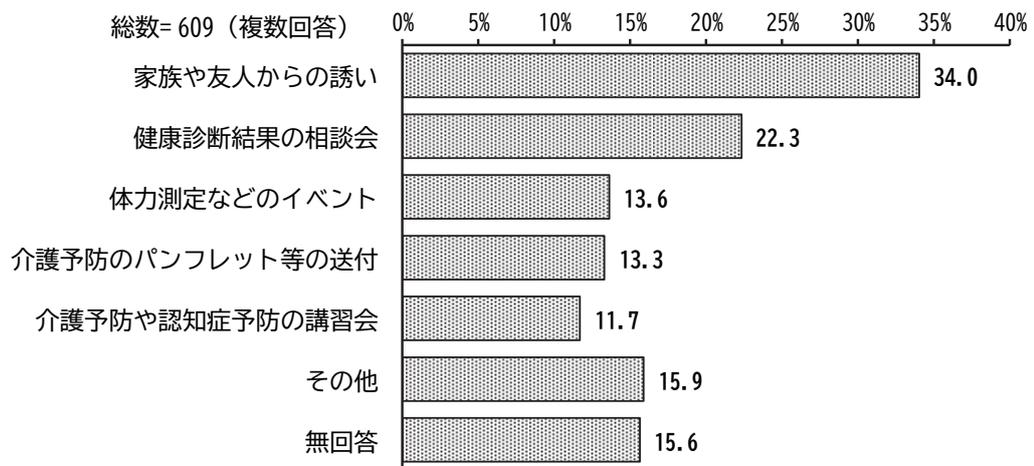
	全体	リスク項目別出現率								
		運動機能リスク	栄養改善リスク	咀嚼機能リスク	閉じこもりリスク	認知症リスク	うつリスク	IADLが低い高齢者	転倒リスク	
全体	2,681 100.0	279 10.4	295 11.0	668 24.9	308 11.5	1,066 39.8	1,147 42.8	86 3.2	736 27.5	
加齢による身体機能や認知機能の衰え予防のために実践していることが「ある」	1,707 100.0	123 7.2	194 11.4	350 20.5	138 8.1	623 36.5	675 39.5	28 1.6	444 26.0	
実践内容	運動や体操をする	1,193 100.0	67 5.6	127 10.6	213 17.9	77 6.5	440 36.9	446 37.4	17 1.4	297 24.9
	日常生活の中で体を動かす	1,179 100.0	72 6.1	142 12.0	224 19.0	90 7.6	423 35.9	457 38.8	14 1.2	310 26.3
	外出する	1,201 100.0	62 5.2	133 11.1	224 18.7	41 3.4	410 34.1	437 36.4	9 0.7	300 25.0
	地域の活動に参加する	152 100.0	9 5.9	11 7.2	44 28.9	7 4.6	59 38.8	60 39.5	1 0.7	56 36.8
	人と話す	882 100.0	55 6.2	100 11.3	168 19.0	54 6.1	322 36.5	353 40.0	13 1.5	223 25.3
	趣味や好きなことを楽しむ	1,048 100.0	49 4.7	117 11.2	190 18.1	66 6.3	365 34.8	374 35.7	8 0.8	255 24.3
	脳トレ（パズル・ゲームなど）をする	537 100.0	33 6.1	72 13.4	109 20.3	41 7.6	211 39.3	206 38.4	7 1.3	128 23.8
	バランスのとれた食生活を心がける	1,161 100.0	73 6.3	141 12.1	208 17.9	84 7.2	414 35.7	444 38.2	12 1.0	290 25.0
	お口の健康を心がける（毎日の歯磨きや定期的な歯科検診受診など）	1,147 100.0	78 6.8	151 13.2	210 18.3	89 7.8	420 36.6	452 39.4	16 1.4	302 26.3
	その他	111 100.0	12 10.8	9 8.1	22 19.8	10 9.0	36 32.4	37 33.3	5 4.5	35 31.5
	無回答	7 100.0	3 42.9	1 14.3	1 14.3	1 14.3	4 57.1	3 42.9	2 28.6	4 57.1
何かしたいと思っているが、何もしていない	304 100.0	59 19.4	33 10.9	110 36.2	65 21.4	169 55.6	181 59.5	20 6.6	93 30.6	
特に気にしていないため、何もしていない	305 100.0	40 13.1	25 8.2	94 30.8	53 17.4	116 38.0	137 44.9	21 6.9	87 28.5	
無回答	365 100.0	57 15.6	43 11.8	114 31.2	52 14.2	158 43.3	154 42.2	17 4.7	112 30.7	

【問61において「2」「3」（何もしていない）の方におたずねします。】

問61-2 どのようなきっかけがあれば、取組みを始められると思いますか。（〇はいくつでも）

加齢による衰え予防に取り組んでいない人が取組みを始めるためのきっかけは、「家族や友人からの誘い」の割合が34.0%で最も高く、次いで「健康診断結果の相談会」が22.3%、「体力測定などのイベント」が13.6%となっている。

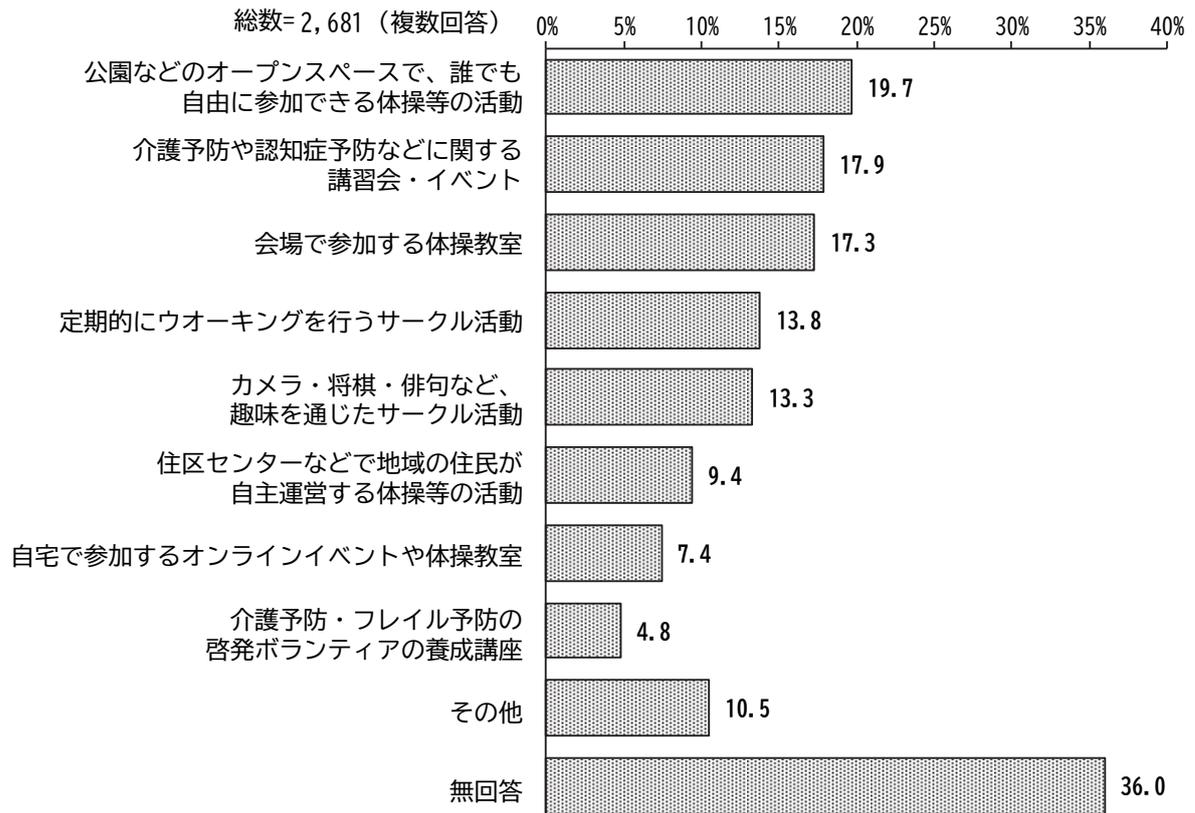
図表4-9-7 どのようなきっかけがあれば取組みを始められるか



問62 次のような教室や活動があったら、参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)

参加したいと思える教室や活動は、「公園などのオープンスペースで、誰でも自由に参加できる体操等の活動」の割合が19.7%で最も高く、次いで「介護予防や認知症予防などに関する講習会・イベント」が17.9%、「会場で参加する体操教室」が17.3%となっている。

図表4-9-8 参加したいと思う教室・活動



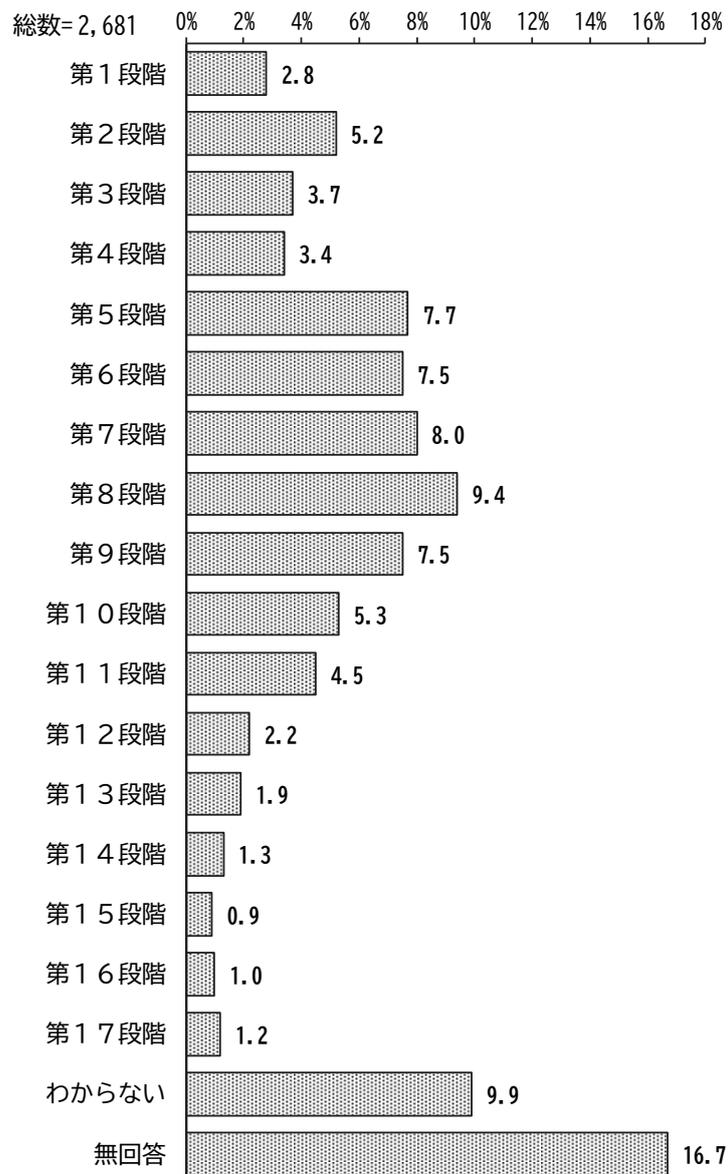
## 10 介護保険制度について

### (1) 介護保険料の所得段階

問63 あなたの現在の介護保険料の所得段階は、どれに該当しますか。(○は1つ)

介護保険料の所得段階は、「わからない」の割合が9.9%で最も高く、次いで「第8段階」が9.4%、「第7段階」が8.0%となっている。

図表4-10-1 介護保険料の所得段階

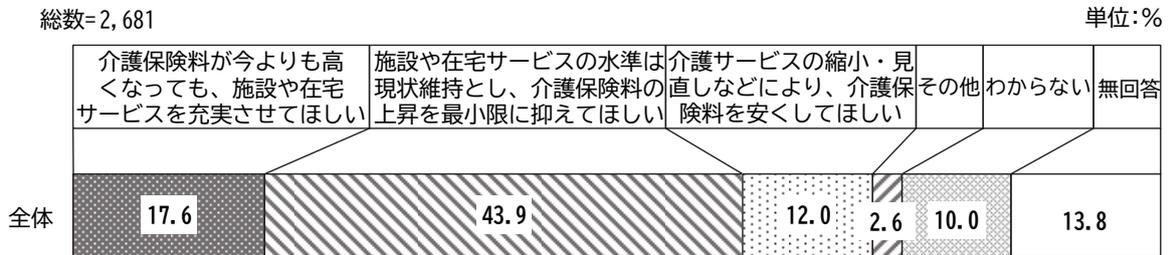


(2) 介護サービスと介護保険料の関係についての考え

問64 今後、高齢化が進み介護サービスを利用する方が多くなると介護保険料が高くなるのが想定されますが、介護サービスと介護保険料の関係について、あなたの考えに近いものはどれですか。(〇は1つ)

介護サービスと介護保険料の関係は、「施設や在宅サービスの水準は現状維持とし、介護保険料の上昇を最小限に抑えてほしい」の割合が43.9%で最も高く、次いで「介護保険料が今よりも高くなっても、施設や在宅サービスを充実させてほしい」が17.6%、「介護サービスの縮小・見直しなどにより、介護保険料を安くしてほしい」が12.0%となっている。

図表4-10-2 介護サービスと介護保険料の関係についての考え



# 11 高齢者施策全般について

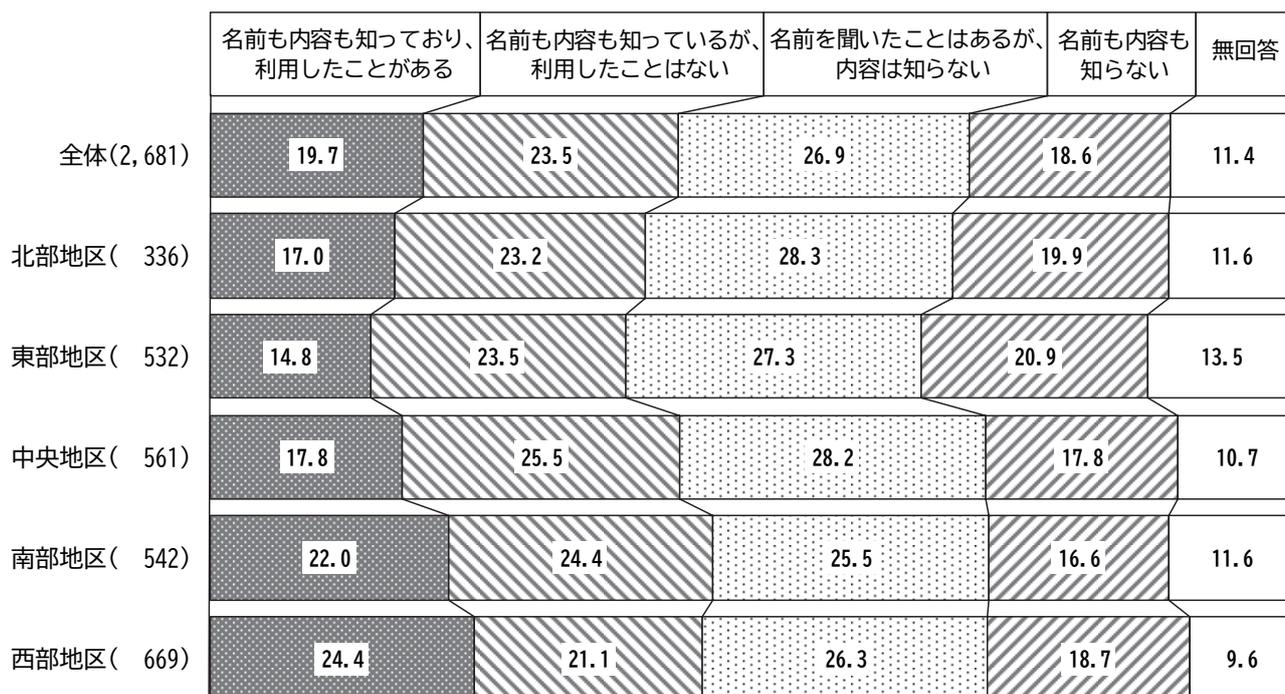
## (1) 地域包括支援センターの認知度

問65 目黒区では、区内5か所に保健福祉の総合相談窓口「地域包括支援センター」を設置しています。あなたは「地域包括支援センター」をご存知ですか。(〇は1つ)

地域包括支援センターについて、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が26.9%で最も高く、次いで「名前も内容も知っているが、利用したことはない」が23.5%、「名前も内容も知っており、利用したことがある」が19.7%となっている。また、「名前も内容も知っており、利用したことがある」と「名前も内容も知っているが、利用したことはない」を合わせた『内容まで知っている』と回答した人の割合は、43.2%となっている。

図表4-11-1 地域別地域包括支援センターの認知度

単位:%

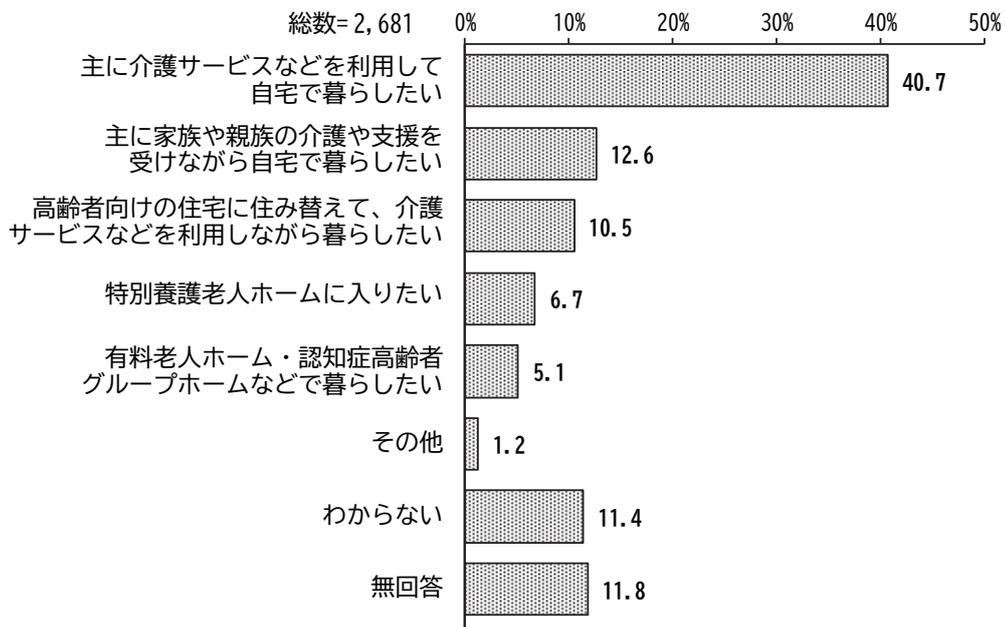


(2) 今後の暮らし方や必要な支援・サービス

問66 今後介護などが必要になった場合、あるいは要介護度が重くなった場合、あなたはどのような暮らし方をしたいと思いますか。(〇は1つ)

介護が必要になった場合に希望する暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して自宅で暮らしたい」の割合が40.7%で最も高く、次いで「主に家族や親族の介護や支援を受けながら自宅で暮らしたい」が12.6%、「わからない」が11.4%となっている。

図表4-11-2 介護が必要になった場合に希望する暮らし方



介護が必要となった場合に希望する暮らし方を性別・年齢階級別にみると、「主に介護サービスなどを利用して自宅で暮らしたい」の割合は全ての年齢階級で最も高い。また、「主に家族や親族の介護や支援を受けながら自宅で暮らしたい」は全ての年齢階級で男性が女性を上回っている。これら2項目を合わせた『自宅で暮らしたい』と回答した人の割合は、男性・女性とも「70～74歳」以上の各年齢階級で50%を超えている。

図表4-11-3 介護が必要になった場合に希望する暮らし方（性別・年齢階級別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

	全体	主に家族や親族の介護や支援を受けながら自宅で暮らしたい	主に介護サービスなどを利用して自宅で暮らしたい	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用して暮らしたい	認知症高齢者グループホームなどで暮らしたい	有料老人ホーム・特別養護老人ホームに 入りたい	その他	わからない	無回答	
										回答数
全体	2,681	339	1,090	282	136	180	33	305	316	
	100.0	12.6	40.7	10.5	5.1	6.7	1.2	11.4	11.8	
性別・年齢階級	男性全体	1,108	169	439	110	51	67	8	141	123
		100.0	15.3	39.6	9.9	4.6	6.0	0.7	12.7	11.1
	65～69歳	253	29	88	33	15	12	2	44	30
		100.0	11.5	34.8	13.0	5.9	4.7	0.8	17.4	11.9
	70～74歳	303	47	114	27	15	22	4	43	31
		100.0	15.5	37.6	8.9	5.0	7.3	1.3	14.2	10.2
	75～79歳	246	33	100	22	16	15	1	34	25
		100.0	13.4	40.7	8.9	6.5	6.1	0.4	13.8	10.2
	80～84歳	180	31	79	21	3	7	1	15	23
		100.0	17.2	43.9	11.7	1.7	3.9	0.6	8.3	12.8
	85～89歳	88	19	43	6	1	7	-	4	8
		100.0	21.6	48.9	6.8	1.1	8.0	-	4.5	9.1
	90歳以上	37	10	14	1	1	4	-	1	6
		100.0	27.0	37.8	2.7	2.7	10.8	-	2.7	16.2
	女性全体	1,535	165	637	166	84	110	24	162	187
		100.0	10.7	41.5	10.8	5.5	7.2	1.6	10.6	12.2
	65～69歳	306	28	113	50	20	21	6	37	31
	100.0	9.2	36.9	16.3	6.5	6.9	2.0	12.1	10.1	
70～74歳	385	34	161	46	20	34	5	46	39	
	100.0	8.8	41.8	11.9	5.2	8.8	1.3	11.9	10.1	
75～79歳	356	41	155	31	18	20	5	31	55	
	100.0	11.5	43.5	8.7	5.1	5.6	1.4	8.7	15.4	
80～84歳	258	26	113	27	12	18	4	26	32	
	100.0	10.1	43.8	10.5	4.7	7.0	1.6	10.1	12.4	
85～89歳	157	19	63	10	10	13	3	16	23	
	100.0	12.1	40.1	6.4	6.4	8.3	1.9	10.2	14.6	
90歳以上	71	16	31	2	4	4	1	6	7	
	100.0	22.5	43.7	2.8	5.6	5.6	1.4	8.5	9.9	
その他・無回答	38	5	14	6	1	3	1	2	6	
	100.0	13.2	36.8	15.8	2.6	7.9	2.6	5.3	15.8	

介護が必要となった場合に希望する暮らし方を家族構成別にみると、すべての家族構成で「主に介護サービスなどを利用して自宅で暮らしたい」の割合が最も高くなっている。また、「主に家族や親族の介護や支援を受けながら自宅で暮らしたい」では「息子・娘との2世帯」が、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」では「1人暮らし」が他の家族構成に比べて高くなっている。

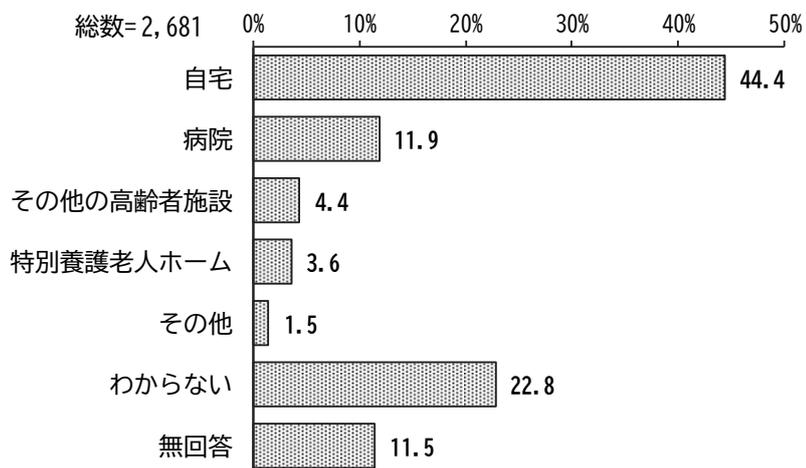
図表4-11-4 介護が必要になった場合に希望する暮らし方（家族構成別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	主に家族や親族の介護や支援を受けながら自宅で暮らしたい	主に介護サービスなどを利用して自宅で暮らしたい	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい	有料老人ホーム・認知症高齢者グループホームなどで暮らしたい	特別養護老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答
全体		2,681 100.0	339 12.6	1,090 40.7	282 10.5	136 5.1	180 6.7	33 1.2	305 11.4	316 11.8
家族構成	1人暮らし	648 100.0	35 5.4	268 41.4	84 13.0	30 4.6	40 6.2	8 1.2	90 13.9	93 14.4
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	990 100.0	137 13.8	412 41.6	96 9.7	55 5.6	62 6.3	12 1.2	101 10.2	115 11.6
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	120 100.0	14 11.7	49 40.8	11 9.2	5 4.2	9 7.5	2 1.7	13 10.8	17 14.2
	息子・娘との2世帯	422 100.0	82 19.4	172 40.8	39 9.2	15 3.6	30 7.1	6 1.4	40 9.5	38 9.0
	その他	429 100.0	61 14.2	170 39.6	42 9.8	28 6.5	33 7.7	3 0.7	52 12.1	40 9.3
	無回答	72 100.0	10 13.9	19 26.4	10 13.9	3 4.2	6 8.3	2 2.8	9 12.5	13 18.1

問67 あなたは、人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。(〇は1つ)

人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」の割合が44.4%で最も高く、次いで「わからない」が22.8%、「病院」が11.9%となっている。

図表4-11-5 人生の最期を迎えたい場所



人生の最期を迎えたい場所を性別・年齢階級別にみると、「自宅」の割合は男性が49.4%、女性が41.1%であり、男性が女性を8.3ポイント上回っている。また、年齢階級が高くなるにつれて「自宅」の割合が高くなる傾向が見られる。

図表4-11-6 人生の最期を迎えたい場所（性別・年齢階級別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	自宅	病院	特別養護老人ホーム	その他の高齢者施設	その他	わからない	無回答
全体		2,681 100.0	1,191 44.4	318 11.9	96 3.6	119 4.4	39 1.5	611 22.8	307 11.5
性別・年齢階級	男性全体	1,108 100.0	547 49.4	121 10.9	33 3.0	38 3.4	15 1.4	228 20.6	126 11.4
	65～69歳	253 100.0	110 43.5	27 10.7	5 2.0	9 3.6	4 1.6	67 26.5	31 12.3
	70～74歳	303 100.0	151 49.8	32 10.6	15 5.0	8 2.6	3 1.0	65 21.5	29 9.6
	75～79歳	246 100.0	107 43.5	29 11.8	6 2.4	13 5.3	8 3.3	56 22.8	27 11.0
	80～84歳	180 100.0	94 52.2	20 11.1	5 2.8	6 3.3	-	29 16.1	26 14.4
	85～89歳	88 100.0	67 76.1	7 8.0	1 1.1	1 1.1	-	6 6.8	6 6.8
	90歳以上	37 100.0	17 45.9	6 16.2	1 2.7	1 2.7	-	5 13.5	7 18.9
	女性全体	1,535 100.0	631 41.1	191 12.4	62 4.0	77 5.0	23 1.5	374 24.4	177 11.5
	65～69歳	306 100.0	102 33.3	30 9.8	10 3.3	22 7.2	7 2.3	105 34.3	30 9.8
	70～74歳	385 100.0	149 38.7	41 10.6	21 5.5	20 5.2	4 1.0	114 29.6	36 9.4
	75～79歳	356 100.0	157 44.1	35 9.8	14 3.9	16 4.5	4 1.1	76 21.3	54 15.2
	80～84歳	258 100.0	111 43.0	49 19.0	14 5.4	13 5.0	5 1.9	40 15.5	26 10.1
	85～89歳	157 100.0	71 45.2	27 17.2	3 1.9	4 2.5	1 0.6	27 17.2	24 15.3
	90歳以上	71 100.0	39 54.9	9 12.7	-	2 2.8	2 2.8	12 16.9	7 9.9
その他・無回答		38 100.0	13 34.2	6 15.8	1 2.6	4 10.5	1 2.6	9 23.7	4 10.5

人生の最期を迎えたい場所を家族構成別にみると、全ての家族構成で「自宅」の割合が最も高いが、「1人暮らし」は他の家族構成よりも低くなっている。

図表4-11-7 人生の最期を迎えたい場所（家族構成別）

（上段：回答数、下段：構成比）

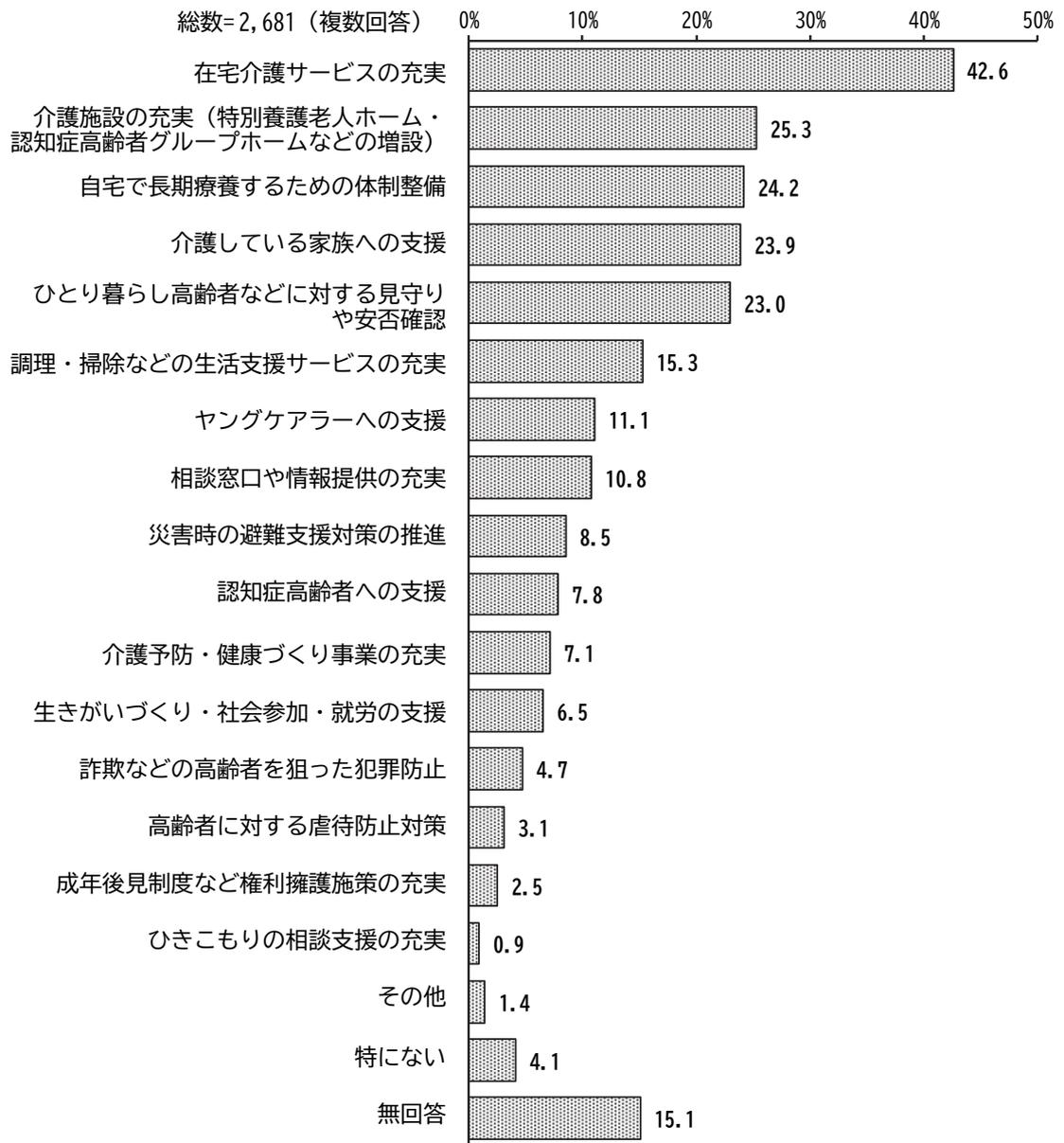
		全体	自宅	病院	特別養護老人ホーム	その他の高齢者施設	その他	わからない	無回答
全体		2,681 100.0	1,191 44.4	318 11.9	96 3.6	119 4.4	39 1.5	611 22.8	307 11.5
家族構成	1人暮らし	648 100.0	222 34.3	81 12.5	33 5.1	38 5.9	11 1.7	173 26.7	90 13.9
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	990 100.0	493 49.8	95 9.6	32 3.2	41 4.1	15 1.5	207 20.9	107 10.8
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	120 100.0	48 40.0	15 12.5	4 3.3	- -	2 1.7	35 29.2	16 13.3
	息子・娘との2世帯	422 100.0	215 50.9	58 13.7	15 3.6	15 3.6	4 0.9	77 18.2	38 9.0
	その他	429 100.0	192 44.8	59 13.8	8 1.9	20 4.7	4 0.9	104 24.2	42 9.8
	無回答	72 100.0	21 29.2	10 13.9	4 5.6	5 6.9	3 4.2	15 20.8	14 19.4

(3) 高齢者施策について

問68 目黒区において、これからの高齢者施策で優先的に取り組む必要があると思うものはどれですか。(〇は3つまで)

区で優先して取り組む必要があると思う高齢者施策は、「在宅介護サービスの充実」の割合が42.6%で最も高く、次いで「介護施設の充実（特別養護老人ホーム・認知症高齢者グループホームなどの増設）」が25.3%、「自宅で長期療養するための体制整備」が24.2%となっている。

図表4-11-8 区で優先的に取り組む必要があると思う高齢者施策

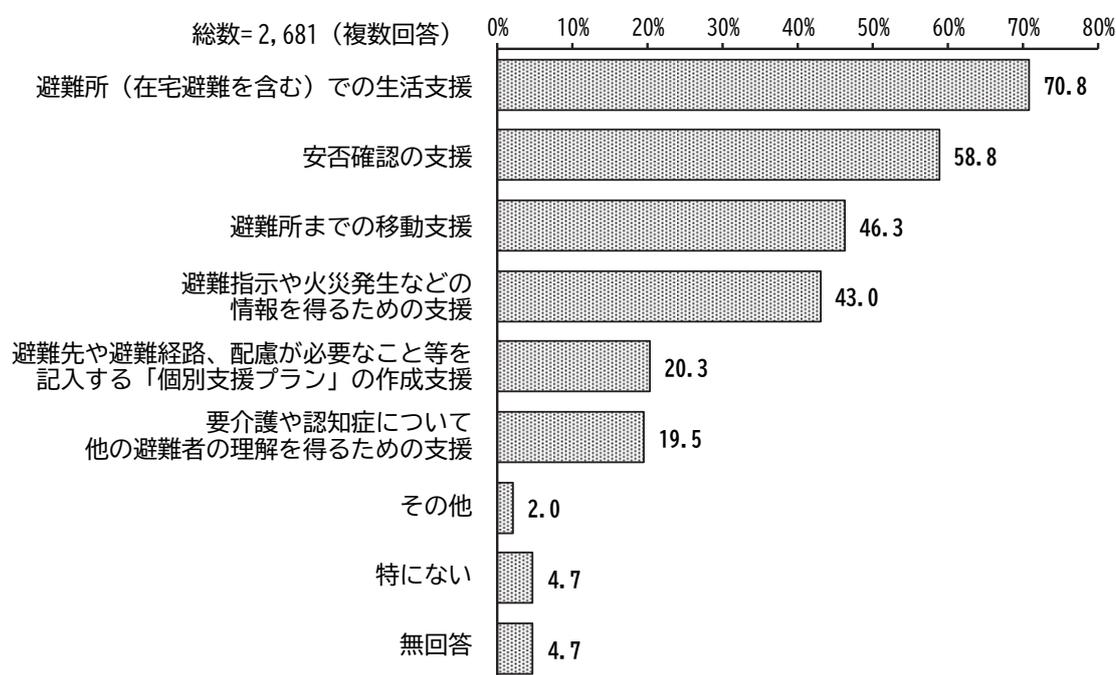


## 12 災害時の対策について

問69 災害（地震、風水害等）が発生した時や事前の備えに、どのような支援が必要と思いますか。（〇はいくつでも）

災害発生時や事前の備えに必要な支援は、「避難所（在宅避難を含む）での生活支援」の割合が70.8%で最も高く、次いで「安否確認の支援」が58.8%、「避難所までの移動支援」が46.3%となっている。

図表4-12-1 災害発生時や事前の備えに必要な支援



災害発生時や事前の備えに必要な支援を家族構成別にみると、全ての家族構成で「避難所（在宅避難を含む）での生活支援」の割合が高い。また、「安否確認の支援」、「避難所までの移動支援」、「避難指示や火災発生などの情報を得るための支援」についても全ての家族構成で40%～60%程度となっている。

図表4-12-2 災害発生時や事前の備えに必要な支援（家族構成別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	安否確認の支援	避難所までの移動支援	避難指示や火災発生などの情報を得るための支援	避難所（在宅避難を含む）での生活支援	「個別支援プラン」の作成支援 避難先や避難経路、配慮が必要なこと等を記入する	要介護や認知症について他の避難者の理解を得るための支援	その他	特になし	無回答
全体		2,681 100.0	1,577 58.8	1,240 46.3	1,152 43.0	1,898 70.8	544 20.3	523 19.5	53 2.0	127 4.7	127 4.7
家族構成	1人暮らし	648 100.0	387 59.7	309 47.7	280 43.2	435 67.1	140 21.6	101 15.6	14 2.2	39 6.0	33 5.1
	夫婦2人暮らし （配偶者65歳以上）	990 100.0	591 59.7	437 44.1	426 43.0	705 71.2	176 17.8	187 18.9	18 1.8	44 4.4	48 4.8
	夫婦2人暮らし （配偶者64歳以下）	120 100.0	70 58.3	49 40.8	63 52.5	88 73.3	30 25.0	24 20.0	1 0.8	5 4.2	4 3.3
	息子・娘との2世帯	422 100.0	244 57.8	187 44.3	183 43.4	314 74.4	91 21.6	94 22.3	8 1.9	15 3.6	21 5.0
	その他	429 100.0	256 59.7	224 52.2	178 41.5	311 72.5	94 21.9	102 23.8	10 2.3	20 4.7	14 3.3
	無回答	72 100.0	29 40.3	34 47.2	22 30.6	45 62.5	13 18.1	15 20.8	2 2.8	4 5.6	7 9.7

## 13 自由意見

問70 介護保険制度や高齢者保健福祉施策に関してご意見やご提案がありましたら、お聞かせください。

区に対するご意見・ご提案を自由に記入していただいたところ、609名の方から回答が寄せられた。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載。

### 介護保険制度全般について

- 「地域包括支援センター」の情報に接する機会が有りませんでした。「目黒区広報」などでもっと取り上げてほしいと思っています。
- これから介護を受けるにあたり、当事者になる前に準備をしておきたいので、どのような制度や施策がなされているのか等についての説明会の開催を希望します。
- 要介護や認知症になったときに家族がどのように対応（手続きを含む）したらよいのか、事前に家族で話し合うための要点をまとめた冊子などがあれば事前準備がしやすいと思います。
- 介護保険の提供する具体的サービス内容や自己負担額などをお教えてください。保険料に関する広報はよく目にしますが給付については見たことがありません。
- 今後団塊の世代の高齢化が加速することによりサービスや内容の低下が心配です。
- 介護保険制度を始めとする高齢者保健福祉施策については、今後は給付の充実よりも、給付抑制、財政負担の軽減に力を入れてほしいです。
- 65才すぎても仕事を続けていかなければならない時代の中、高齢者（親）の日常的見守りや介護・看護をどのようにしていけばよいのでしょうか。
- 高齢者が増える実状をかんがみて、施設を増やすことも必要かもしれませんが、なるべく長い間、自宅でひとりで暮らしていけるような支援を考えてほしい。
- 行政サービスには所得制限で使えないものが多い。レベルを下げてでも平等に使えるようにしてほしい。
- 介護が必要な時に認定までに時間がかかりすぎる。
- 努力して健康維持に努めていても、腰痛などで一時的に動けなくなった時に全く支援を受けることができない。

### 介護保険料について

- 介護保険の利用範囲や利用料の見直しにより、介護保険料をこれ以上上げないでほしい。
- 介護保険料が高すぎる。自己負担を増やすべきだ。健康に気をつけて仕事を続けて自活している人に依存し過ぎ。
- 介護保険料は上げないと、高齢化社会に向け充実した介護サービスは受けられないと思う。
- 介護保険料の見直しを求める。低所得の年金に対する保険料が高い。
- 介護サービスを使っていない被保険者の保険料を下げてほしい。

- 所得段階が高い人が低い人を支えるにしても、差がありすぎるように思います。
- 多額な介護保険料を高所得者から一辺倒に徴収するだけではなく、納付者の収入以外の事情（介護してくれる家族の有無等）を考慮してほしい。
- 長期にわたり介護保険料を納めているが、本当に必要がある状態になったときに、助けてもらえるかとても不安。

### 介護予防・フレイル予防について

- 体力作りの器具を自由につかえる場所が近くにあるといいと思う。
- 少しでも介護にならないように、60代のうちから筋トレ等、努力していきたいです。そのための運動施設（シニア向け）を安く利用できるような作ってほしいです
- 学校の休校中にグラウンドを地域の老人スポーツクラブに開放する制度。
- 各町に住区センターがあるので、そこを利用して高齢者の福祉に様々な企画（食事会、一日書道、一日ボランティアの物作りなど）をしてもらいたいと思います。
- 体調に少し問題のある方に対して、健康状態の悪化の予防策をもっと推進し、介護保険利用の増加を抑えてほしい。
- 身体機能や認知機能等生活習慣の見直しにより現状維持出来るような、老人に理解できる程度のパンフレットがあればうれしいです。
- 自主グループでの活動は、ご近所との関係などからなかなか参加を続けるのは難しいため、専門家の指導・管理のもと、安心して通える事業所にお世話になりたいです。
- 運動や体操など地域活動に参加したいという気持ちがあっても、なかなか飛び込めない。
- 運動をしたらポイントが増えて、区内の商店で使える商品券と交換できれば良い。
- 健康なシニアに対する健康体操プログラムが少ない。やりたいものがあっても抽選で当たらない。

### 在宅サービスについて

- 入院中の家族が一時帰宅する際、直前に決まったため簡易トイレ・車いす等を借りることができなかった。このような時に必要なサービスが利用できるようなしてほしい。
- 現在、要介護5の家族を介護しています。病状が突然変わる明け方など、援助が必要な時にヘルパーさんの力が借りられるようなシステムがあればと思います。
- 高齢者の一人暮らしが増加する今後に向けて、手軽に利用できる短時間や軽労働からの手助け制度を充実していただきたい。
- 自宅で最後を迎えたいので、在宅介護サービスの充実をお願いしたい。
- ケアマネジャーの優劣により高齢者の生活環境は大きく左右されると思います。ケアマネジャーの育成教育と資格基準を厳格にし、処遇改善されると良い。

### 施設サービスについて

- 介護を受けている人だけでなく親の介護をしている人に対して、施設ごとに良い点・問題点などを徹底的に調査して把握してください。

- 将来1人暮らしになった際、低額で利用できる介護施設の充実に期待。
- 軽費老人ホームをたくさん作ってほしい。
- 健康で元気な認知症高齢者を抱える家族の苦労を目の当たりにしています。デイサービスやショートステイでは限界があります。専門の施設の設置が早期に必要と思います。
- 特養は認知症の進んだ方と一緒に生活することになるため、認知症状のない家族（要介護5）が入所を拒んでいる。認知度の状況等に応じたグループ分けをして頂きたいと思います。
- 特養やグループホーム等、費用が高過ぎて使えない。

### 介護人材について

- 介護職員の待遇改善をしないと介護の質は高くなりません。また、本人の支援もさることながら介護者（家族）のレスパイトは本当に重要で共倒れにならない為にも手厚い支援をお願いしたいと思っております。
- 介護の現場の費用、特に介護用品に無駄が多いと思います。もっと介護職員の待遇改善に費用を充ててほしいと思います。
- 介護を現場で提供する皆さんの給与、待遇を改善して、気持ち良く働ける条件にしてほしい。
- 介護施設で虐待等が今後起きないように、施設で働く人達の労働条件（人員数、賃金）を改善し、教育を徹底してほしい。

### 経済的負担について

- 高齢者になって働けなくなった年金暮らしの方が、介護保険や国民健康保険料を払わなくてはならないのは大変だと思います。なんとかしてほしいですね。
- 困っている人のために安く入れる部屋があるとよいと思います。私もまだ働いていますが、これから年齢を重ねると家賃の支払いが難しくなります。
- 年金のわりに生活費の出費・介護費用が多い。
- 年金生活で介護生活の病院、老人ホームなど、経済的な不安でいっぱいである。役所の色々なサービスには感謝しているが、テレビで見る政治家などの無駄遣いが多すぎる。
- 高齢者が現役と同じ収入があった場合、医療費負担が3割となり、介護保険の支払いも多くなっています。基本取れる所から取るとのスタンスには、問題があると思います。

### 将来への不安・悩みについて

- 長いコロナで生活様式が変わりました。アルバイト的な仕事もなくなり、生活が以前より苦しくなり、人には言えない高齢への不安を感じます。
- 一人ぐらしの為、今後の事が不安です。今後の生活の流れをどうしたら良いのか相談出来る方やセミナーなどがあれば、お聞きしたいと思っています。
- 自分が高齢になった時、今の水準の介護サービスが受けられるか、介護保険料も上昇するのではないかと不安があります。
- 今のところ思い通りに生活できていますが、将来の健康面、経済的な不安は大きいです。介護施設への入居については費用面が心配です。

○福祉施設が非常に少ないため、将来不安がある。(入居できないかもしれない)

### 家族介護について

- 介護する側の支援を考えてほしい。
- 認知症初期の在宅老人や、その介護人に対する支援を充実させてほしい。
- 夫の介護をする妻の、生活（健康や精神面）に対する不安を受け止め対応してほしい。
- 夜も介護で寝てられない同居の家族を休ませるための支援も必要だと思います。
- 要介護者を一人にできないため、介護者は検査入院をしたくてもできない。介護者の入院中（例え一日であっても）は、要介護者が安心して生活できる場所が欲しいものです。

### その他

- 老人クラブという名前が悪い。入りたい気にならない。
- 高齢者に特化した問題というより、全世帯バランスよく、福祉支援をしていただきたい。
- コロナ禍において、高齢者差別的な風潮が生まれつつあると感じています。
- 行政側のデジタル化が進んでも我々利用する側が対応できるか不安です。何でもホームページで確認ではなく、対面の部分も是非残していただきたい。
- 運動を控えている高齢者のためにも、学び直しの講座（文学や歴史、英語などについて）を継続的に開催していただけるといいなあと思っております。
- 高齢者が、何か起きたらすぐ相談出来る所を、具体的にまとめて配布してほしい。目にとまるように分かりやすく、繰り返し区民に教えてほしい。
- 耳のきこえの悪い人は外見から理解出来ないため、他人に分かって貰える方法を検討していただきたい。（胸にバッチをつけるとか、首にペンダントのように下げるとか）
- 外へ出ようと思いますが身体を休ませるところがない為、家の中にいることになってしまいます。商店街などに椅子を並べるなど、もっと外に座れるところを考えてほしい。
- 他区のようにコミュニティバスがあったら、病院通い、買物が便利になると思う。
- 最近よく耳にする虐待や不祥事の防止策。
- 社会参加をする機会に恵まれず、どのようにすれば年齢にあった参加が出来るか知りたいと思う。
- 地震等、災害による活動の準備が余りできていないように思う。区でもこの関係の広報活動をもっとやってほしい。
- 目黒区は他区に比較して、難聴者に対する施策が遅れているのではないか。
- 他自治体が終活支援に動き出したと報道されていたが、目黒区でもコスト・効果を勘案しながら何をすべきか、早く方針を決めるべきと思う。
- 独居老人の最後の片づけや手続き等を委託できる行政サービス等が強く望まれます。そのための互助会的な金銭予託等を生前に行うことが出来ればと思います。
- 働けるうちは働きたいので、仕事先の紹介等の就労支援。
- 民間の賃貸マンションに住んでいますが、年令のため契約更新が難しく今後どうしたらと悩んでいます。高齢者でも入れる区の住宅を増やしてほしいです。

## 14 リスク項目該当者の判定結果

### (1) 判定基準

以下の各項目の結果から、厚生労働省が示す判定基準に準じて判定を行った。

#### 【リスク項目該当者】

「運動機能リスク」、「栄養改善リスク」、「咀嚼機能リスク」、「閉じこもりリスク」、「認知症リスク」、「うつリスク」、「IADLが低い高齢者」、「転倒リスク」の各項目について、以下の判定基準により判定した結果、いずれか1項目以上に該当した者。

運動機能リスク（5問） 判定基準：下記選択肢で3問以上が該当する場合

問番号	設 問	選択肢
問10	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問11	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問12	15分位続けて歩いていますか	3. できない
問13	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある
		2. 1度ある
問14	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である
		2. やや不安である

栄養改善リスク（1問） 判定基準：BMI < 18.5に該当する場合

問番号	設 問	選択肢
問18	身長・体重（数字を記入）	BMI が 18.5 未満

咀嚼機能リスク（1問） 判定基準：下記選択肢に該当する場合

問番号	設 問	選択肢
問19	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい

閉じこもりリスク（1問） 判定基準：下記選択肢に該当する場合

問番号	設 問	選択肢
問15	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない
		2. 週1回

認知症リスク（1問） 判定基準：下記選択肢に該当する場合

問番号	設 問	選択肢
問26	物忘れが多いと感じますか	1. はい

うつリスク（2問）

判定基準：下記選択肢でいずれか1つ選択した場合

問番号	設 問	選択肢
問54	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問55	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

I ADLが低い高齢者（5問）

判定基準：下記選択肢を選択した場合を1点とし、計3点以下の場合

問番号	設 問	選択肢
問29	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	1. できるし、している
		2. できるけどしていない
問30	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している
		2. できるけどしていない
問31	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している
		2. できるけどしていない
問32	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している
		2. できるけどしていない
問33	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している
		2. できるけどしていない

※ I ADL…手段的日常生活動作（instrumental activity of daily living）の略で、買い物、調整、洗濯、電話、薬の管理、財産管理、乗り物等の日常生活上の複雑な動作がどの程度可能かを示す指標。

転倒リスク（1問）

判定基準：下記選択肢に該当する場合

問番号	設 問	選択肢
問13	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある
		2. 1度ある

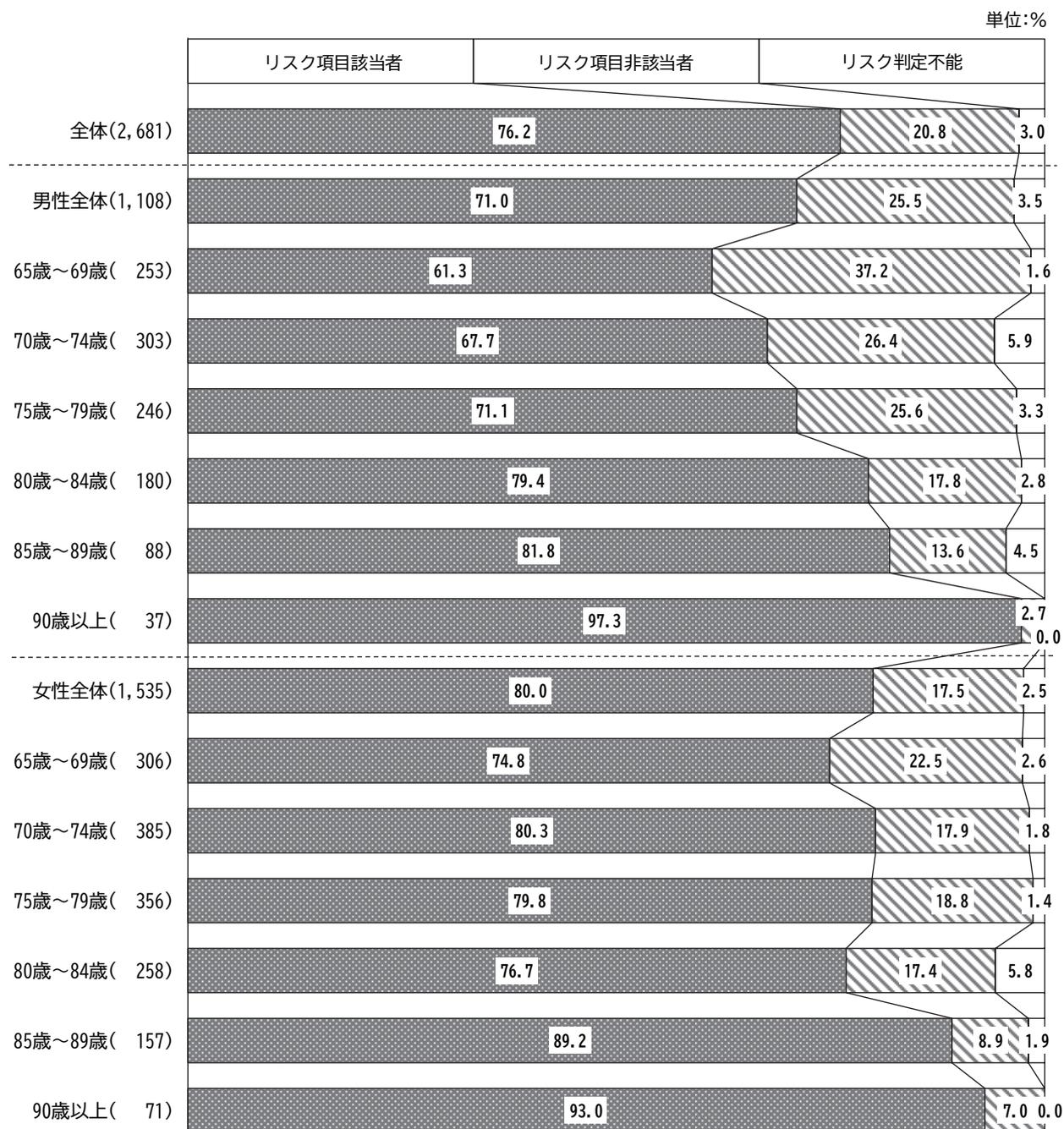
## (2) 判定結果

### ① リスク項目該当者出現率（性別・年齢階級別）

回答者のうち、リスク項目該当者は全体で76.2%（男性71.0%、女性80.0%）、リスク項目非該当者は20.8%（男性25.5%、女性17.5%）となっている。

性別・年齢階級別にみると、男性は年齢が高くなるにつれてリスク項目該当者の割合が高くなるが、女性は「80～84歳」までは80%程度で推移し、「85～89歳」を境に10ポイント程度高くなっている。

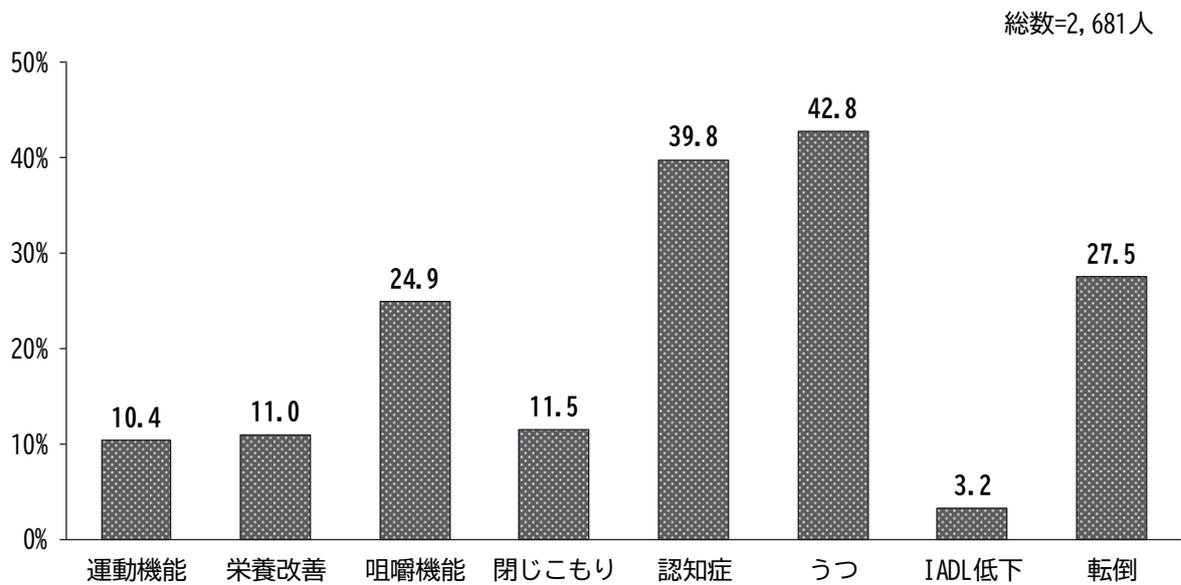
図表4-14-1 リスク項目該当者出現率（性別・年齢階級別）



②リスク項目別出現率

リスク項目別に出現率をみると、「うつリスク」が42.8%で最も高く、次いで「認知症リスク」が39.8%、「転倒リスク」が27.5%、「咀嚼機能リスク」が24.9%となっている。

図表4-14-2 リスク項目別出現率



リスク項目別出現率を性別・年齢階級別にみると、全体的に年齢が高くなるにつれて出現率が高くなる傾向が見られるが、特に「認知症リスク」及び「うつリスク」は、男性・女性ともに「65～69歳」の時点で30%を超えている。

また、多くのリスク項目において、男性は「80～84歳」、女性は「85～89歳」を境に出現率が更に高くなっている。

図表4-14-3 リスク項目別出現率（性別・年齢階級別）

（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	運動機能リスク	栄養改善リスク	咀嚼機能リスク	閉じこもりリスク	認知症リスク	うつリスク	IADLが低い高齢者	転倒リスク
全体		2,681 100.0	279 10.4	295 11.0	668 24.9	308 11.5	1,066 39.8	1,147 42.8	86 3.2	736 27.5
性別・年齢階級	男性全体	1,108 100.0	88 7.9	60 5.4	264 23.8	124 11.2	426 38.4	412 37.2	49 4.4	276 24.9
	65～69歳	253 100.0	3 1.2	5 2.0	27 10.7	16 6.3	80 31.6	91 36.0	3 1.2	49 19.4
	70～74歳	303 100.0	14 4.6	20 6.6	66 21.8	23 7.6	116 38.3	112 37.0	5 1.7	59 19.5
	75～79歳	246 100.0	17 6.9	14 5.7	71 28.9	20 8.1	90 36.6	85 34.6	8 3.3	53 21.5
	80～84歳	180 100.0	24 13.3	9 5.0	55 30.6	33 18.3	83 46.1	69 38.3	14 7.8	58 32.2
	85～89歳	88 100.0	17 19.3	7 8.0	31 35.2	18 20.5	36 40.9	37 42.0	9 10.2	37 42.0
	90歳以上	37 100.0	13 35.1	5 13.5	14 37.8	14 37.8	20 54.1	18 48.6	10 27.0	20 54.1
	女性全体	1,535 100.0	188 12.2	231 15.0	396 25.8	180 11.7	625 40.7	721 47.0	37 2.4	448 29.2
	65～69歳	306 100.0	11 3.6	51 16.7	58 19.0	17 5.6	96 31.4	137 44.8	2 0.7	66 21.6
	70～74歳	385 100.0	25 6.5	65 16.9	84 21.8	32 8.3	155 40.3	193 50.1	5 1.3	90 23.4
	75～79歳	356 100.0	38 10.7	51 14.3	85 23.9	37 10.4	150 42.1	164 46.1	4 1.1	100 28.1
	80～84歳	258 100.0	35 13.6	34 13.2	73 28.3	32 12.4	98 38.0	117 45.3	5 1.9	80 31.0
	85～89歳	157 100.0	43 27.4	20 12.7	57 36.3	30 19.1	83 52.9	71 45.2	7 4.5	75 47.8
	90歳以上	71 100.0	36 50.7	10 14.1	39 54.9	32 45.1	43 60.6	38 53.5	14 19.7	35 49.3
	その他・無回答	38 100.0	3 7.9	4 10.5	8 21.1	4 10.5	15 39.5	14 36.8	-	12 31.6

## ③他のリスクとの重複状況

各リスク項目間の該当者重複状況をみると、どのリスク項目においても「認知症リスク」、「うつリスク」との重複が多い。

また、「運動機能リスク」の該当者は72.4%が「転倒リスク」と、50.2%が「咀嚼機能リスク」と重複しており、「IADLが低い高齢者」の該当者は「栄養改善リスク」以外の全ての項目で50%以上が重複している。

図表4-14-4 他のリスクとの重複状況

(上段；回答数、下段；構成比)

	全体	運動機能リスク	栄養改善リスク	咀嚼機能リスク	閉じこもりリスク	認知症リスク	うつリスク	IADLが低い高齢者	転倒リスク	
全体	2,681 100.0	279 10.4	295 11.0	668 24.9	308 11.5	1,066 39.8	1,147 42.8	86 3.2	736 27.5	
リスク項目別出現率	運動機能リスク	279 100.0	279 100.0	35 12.5	140 50.2	97 34.8	173 62.0	174 62.4	57 20.4	202 72.4
	栄養改善リスク	295 100.0	35 11.9	295 100.0	85 28.8	36 12.2	126 42.7	147 49.8	14 4.7	84 28.5
	咀嚼機能リスク	668 100.0	140 21.0	85 12.7	668 100.0	138 20.7	357 53.4	369 55.2	48 7.2	265 39.7
	閉じこもりリスク	308 100.0	97 31.5	36 11.7	138 44.8	308 100.0	156 50.6	175 56.8	52 16.9	112 36.4
	認知症リスク	1,066 100.0	173 16.2	126 11.8	357 33.5	156 14.6	1,066 100.0	601 56.4	56 5.3	394 37.0
	うつリスク	1,147 100.0	174 15.2	147 12.8	369 32.2	175 15.3	601 52.4	1,147 100.0	52 4.5	393 34.3
	IADLが低い高齢者	86 100.0	57 66.3	14 16.3	48 55.8	52 60.5	56 65.1	52 60.5	86 100.0	53 61.6
	転倒リスク	736 100.0	202 27.4	84 11.4	265 36.0	112 15.2	394 53.5	393 53.4	53 7.2	736 100.0

### (3) 地区別の判定状況

地区別にリスク項目出現率をみると、全体との差が2ポイント以上下回っているのは中央地区の「認知症リスク」であり、2ポイント以上上回っているのは、北部地区の「咀嚼機能リスク」、「認知症リスク」、東部地区の「栄養改善リスク」、西部地区の「認知症リスク」である。

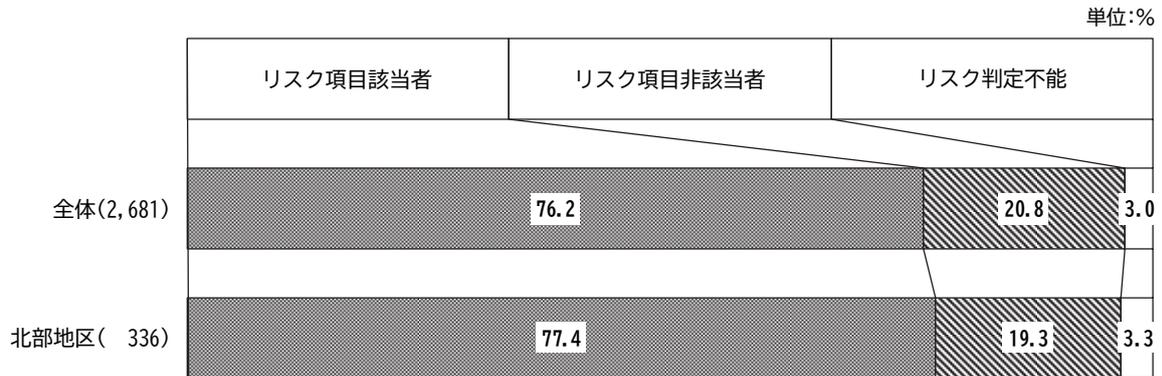
図表4-14-5 リスク項目別出現率（地区別）  
（上段；回答数、下段；構成比）

		全体	北部地区	東部地区	中央地区	南部地区	西部地区
全体		2,681 100.0	336 12.5	532 19.8	561 20.9	542 20.2	669 25.0
リスク項目別出現率	運動機能リスク	279 10.4	31 9.2	59 11.1	62 11.1	58 10.7	65 9.7
	栄養改善リスク	295 11.0	35 10.4	71 13.3	56 10.0	55 10.1	73 10.9
	咀嚼機能リスク	668 24.9	101 30.1	124 23.3	138 24.6	139 25.6	157 23.5
	閉じこもりリスク	308 11.5	36 10.7	62 11.7	72 12.8	60 11.1	74 11.1
	認知症リスク	1,066 39.8	141 42.0	207 38.9	209 37.3	215 39.7	281 42.0
	うつリスク	1,147 42.8	138 41.1	235 44.2	249 44.4	232 42.8	278 41.6
	IADLが低い高齢者	86 3.2	8 2.4	15 2.8	20 3.6	20 3.7	23 3.4
	転倒リスク	736 27.5	96 28.6	145 27.3	158 28.2	141 26.0	182 27.2

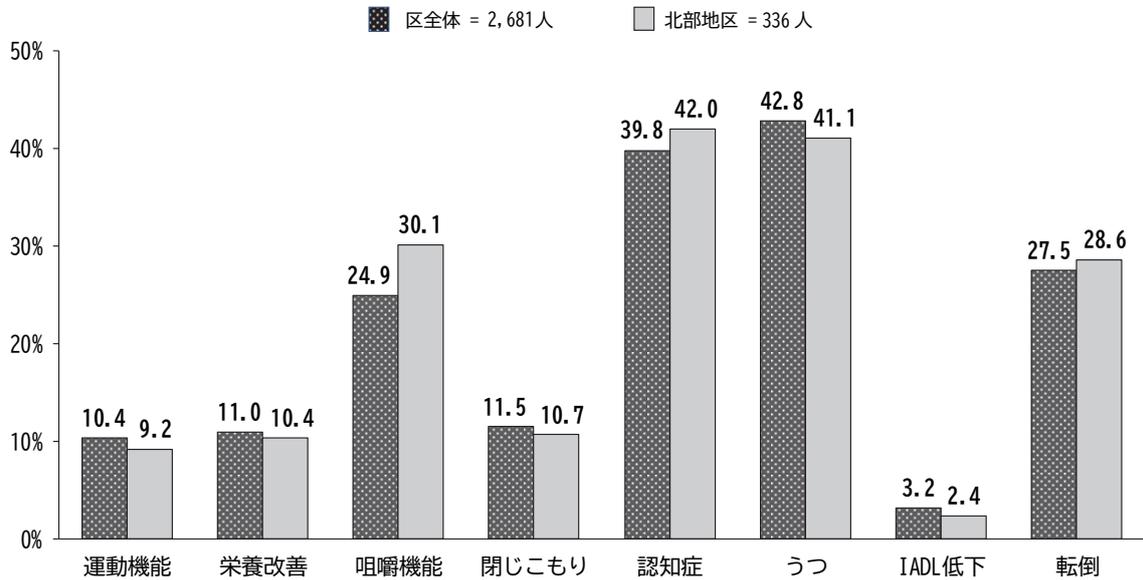
① 北部地区

北部地区のリスク項目該当者は77.4%で、全体の割合を1.2ポイント上回っている。リスク項目別に出現率をみると、「咀嚼機能リスク」、「認知症リスク」、「転倒リスク」が全体の割合を上回り、「うつリスク」など5項目が全体の割合を下回っている。

図表4-14-6 リスク項目該当率（北部地区）



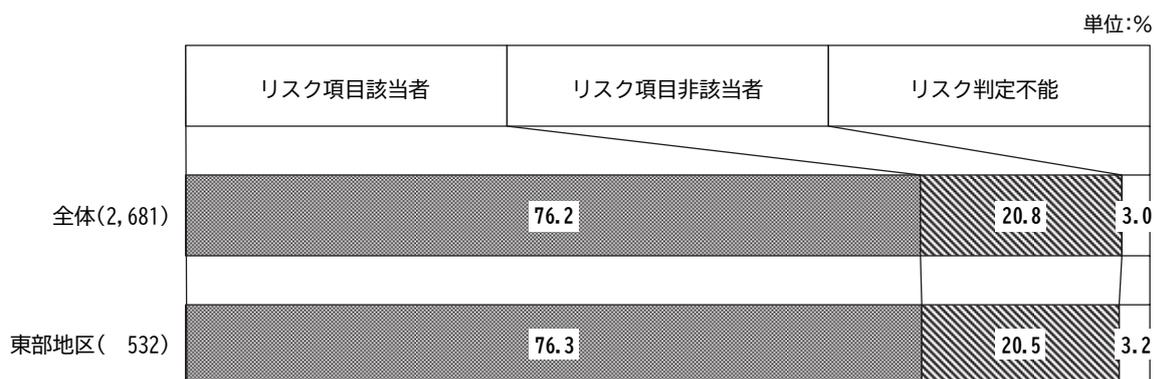
図表4-14-7 リスク項目別該当比較（北部地区）



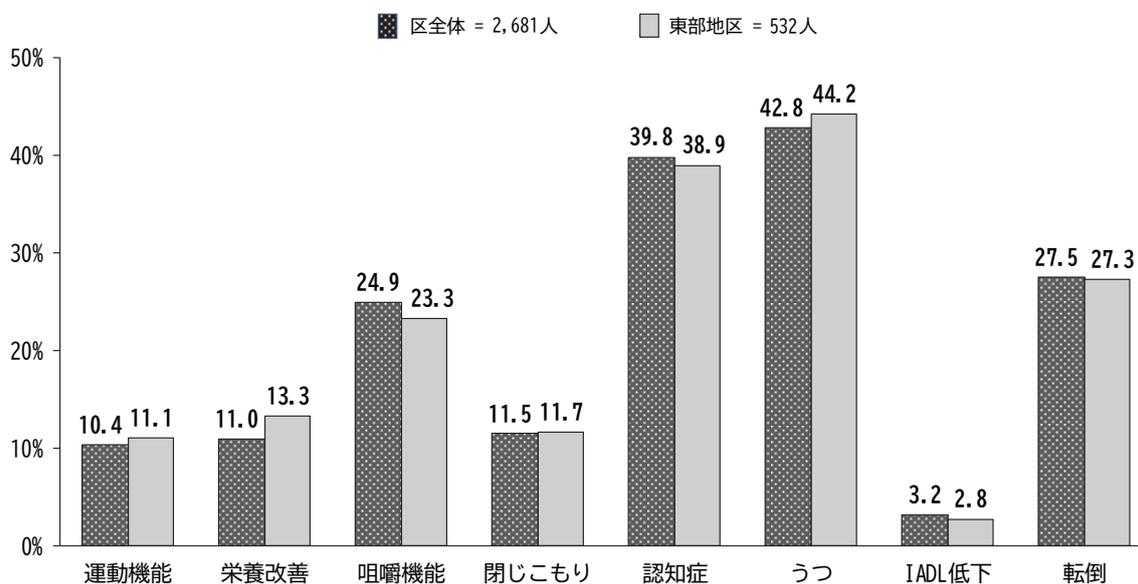
② 東部地区

東部地区のリスク項目該当者は76.3%で、全体の割合を0.1ポイント上回っている。リスク項目別に出現率をみると、「運動機能リスク」、「栄養改善リスク」、「閉じこもりリスク」、「うつリスク」が全体の割合を上回り、「咀嚼機能リスク」など4項目が全体の割合を下回っている。

図表4-14-8 リスク項目該当率（東部地区）



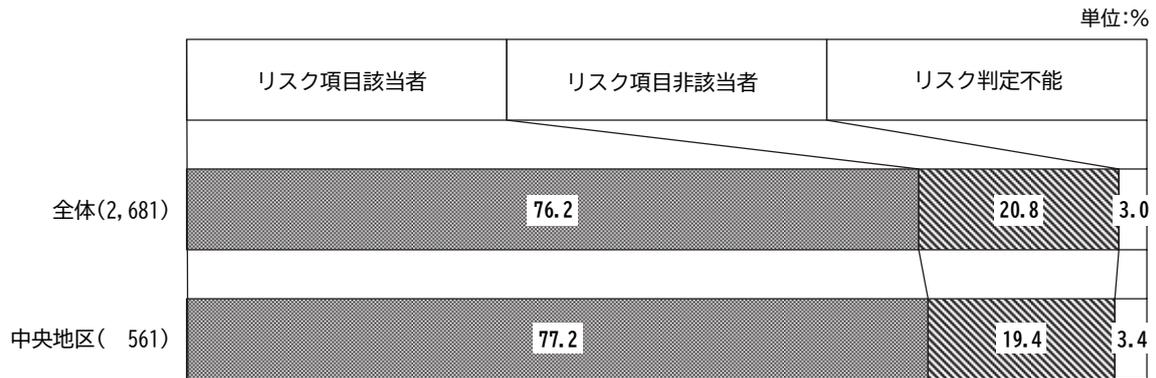
図表4-14-9 リスク項目別該当比較（東部地区）



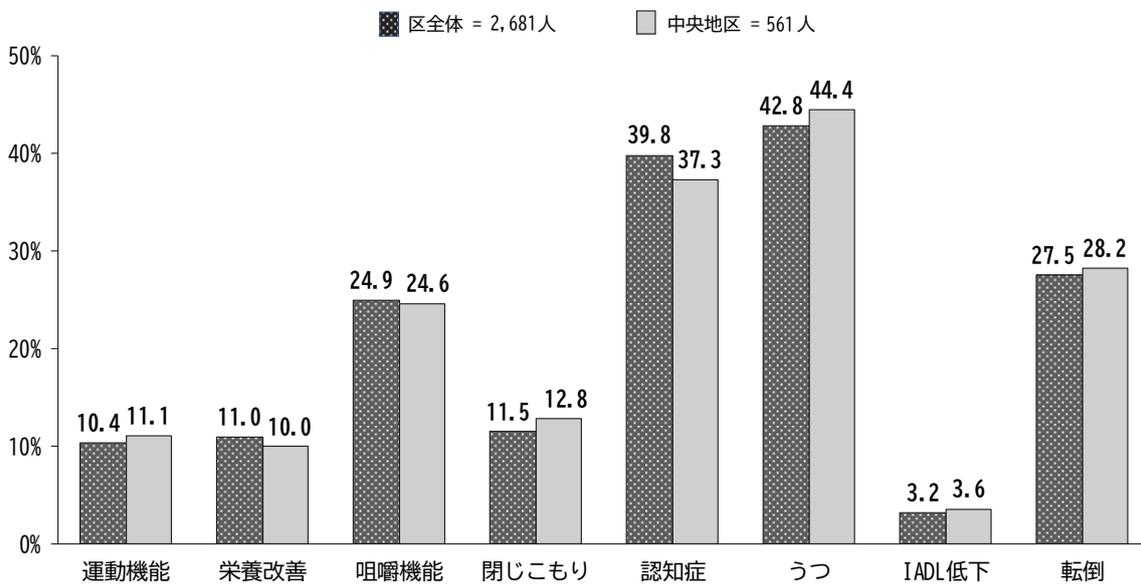
③ 中央地区

中央地区のリスク項目該当者は77.2%で、全体の割合を1.0ポイント上回っている。リスク項目別に出現率をみると、「運動機能リスク」、「閉じこもりリスク」、「うつリスク」、「IADLが低い高齢者」、「転倒リスク」が全体の割合を上回り、「認知症リスク」など3項目が全体の割合を下回っている。

図表4-14-10 リスク項目該当率（中央地区）



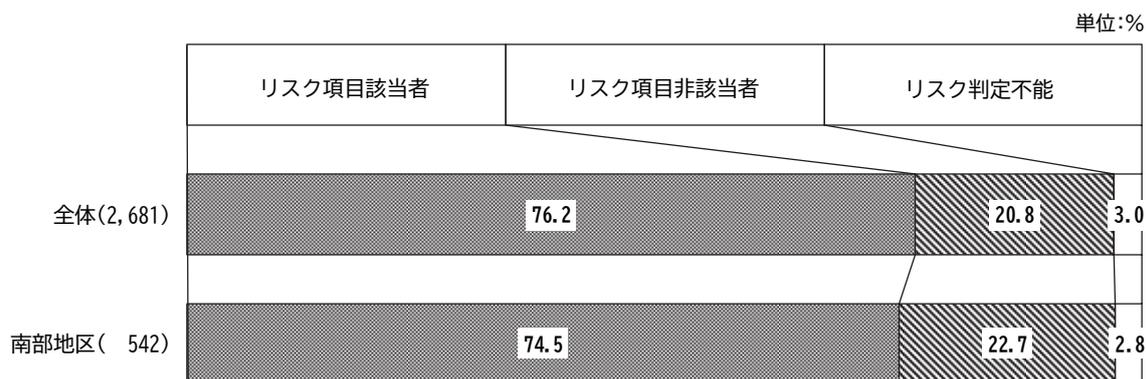
図表4-14-11 リスク項目別該当比較（中央地区）



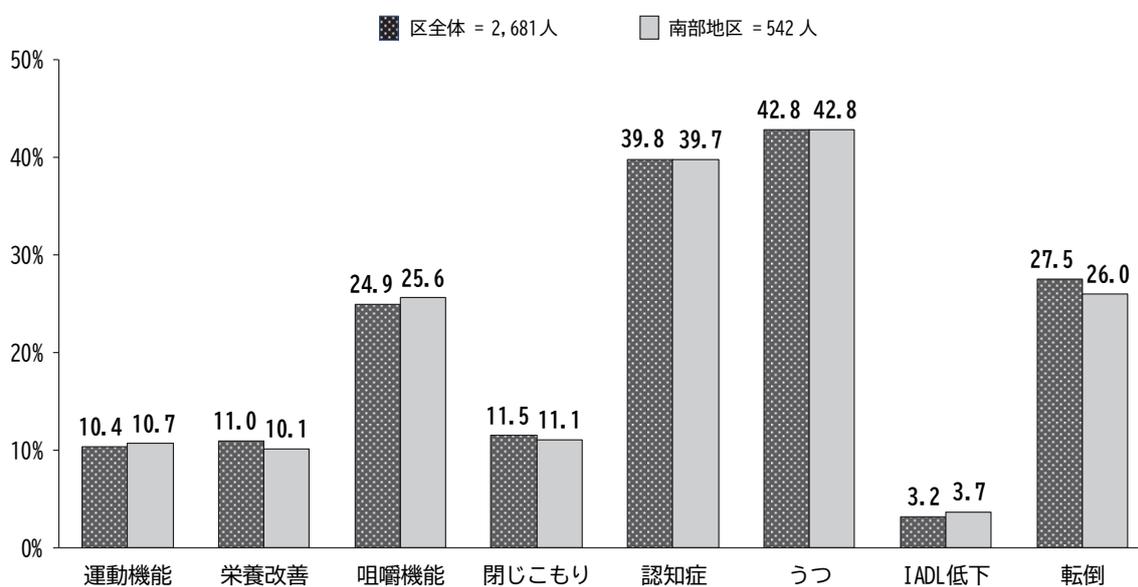
④ 南部地区

南部地区のリスク項目該当者は74.5%で、全体の割合を1.7ポイント下回っている。リスク項目別に出現率をみると、「運動機能リスク」、「咀嚼機能リスク」、「IADLが低い高齢者」が全体の割合を上回り、「転倒リスク」など4項目が全体の割合を下回っている。

図表4-14-12 リスク項目該当率（南部地区）



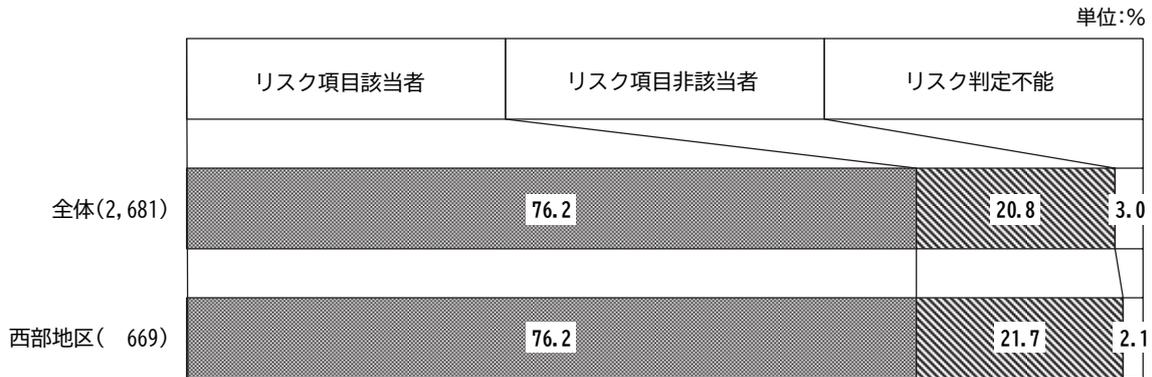
図表4-14-13 リスク項目別該当比較（南部地区）



⑤ 西部地区

西部地区のリスク項目該当者は76.2%で、全体と同じ割合となっている。リスク項目別に出現率をみると、「認知症リスク」、「IADLが低い高齢者」の2項目が全体の割合を上回り、「咀嚼機能リスク」など6項目が全体の割合を下回っている。

図表4-14-14 リスク項目該当率（西部地区）



図表4-14-15 リスク項目別該当比較（西部地区）

